平成 28 年度

事　業　報　告

学校法人　津曲学園

鹿　児　島　国　際　大　学

鹿　児　島　高　等　学　校

鹿児島修学館中学校・高等学校

鹿　児　島　幼　稚　園

目　　次

鹿児島国際大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

鹿児島高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２

鹿児島修学館中学校・高等学校・・・・・・・・・・・・・・・　３９

鹿児島幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４５

鹿児島国際大学

１　基本方針

本学は，鹿児島の進取開明の伝統を継承しつつ，東西文化の融合を趣旨とする建学の精神に則り，平成27年度に引き続き，教育計画，研究計画，産学官連携の取組，国際化の推進，学生募集計画，施設整備計画及びその他重点的事項に積極的に取り組むとともに，「国際的視野でものを考え，地域社会に貢献する人材（地域活性化に思いを馳せ，国際的に活躍する人材）」及び「地域に暮らす人々の生活を生涯支え続けるための人材」の育成に努めた。

また，永続可能な学園運営を目指すため，平成28年度中に中長期ビジョンを策定することになり，平成27年度に引き続き，平成28年度においても18回の大学部会を開催し，平成29年2月「鹿児島国際大学中期ビジョン」を取りまとめた。平成29年度からは，このビジョンに基づき，事業計画を確実に進めていく。

２　教育計画

平成 28 年度から開始した新カリキュラムへの移行は円滑に実施されている。

全学部の新入生ゼミにＳＡ制度を導入した平成 28 年度は, 出席率が前･後期とも上昇し，退学者数が減少するなど，一定の成果が上がった。また，ＩＲの充実により，教職員間の学生情報の共有化も進んだ。

なお，ＧＰＡ値の低い学生には教員による面談を実施するとともに，該当学生には「基礎力アップ学習会」への参加を促したこともあり，同学習会への参加者が増加した。

教育改善の取組みとして,「授業公開」と「学期末授業アンケート」を全科目に拡大することができた。さらに，インターンシップ，フィールドワークについても，ゼミとの連携を強化するなど，積極的に取り組んだ。

なお，平成 28 年度から始まった全学生対象の共通教育科目「地域から世界へ」は，学長が招聘した著名な講師陣 14 名による講義と学長とのセッション，質疑応答からなる画期的な授業となった。１年生 379 名を中心とした 414 名の学生が受講し，国際的な視野に立った地域マインドの育成につながった。

（１）全学的な取組み

①新カリキュラム（学士課程）の導入

ａ．平成 28 年度からの国際社会及び地域社会の発展に寄与する人材を育成するための新カリキュラムの導入とその円滑な実施及び検証について

平成 28 年度からの新カリキュラムの導入に合わせて，ＧＰＡ制度，ナンバリング，カリキュラムマップを導入した。

また，3 つのポリシーを起点としたＰＤＣＡサイクルに即した教学マネジメント体制を確立することを目的に，「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」及び「カリキュラム･ポリシー/ディプロマ･ポリシーとの授業科目の対応表」の作成に着手した。

②ＦＤの充実・活性化

ａ．学部の授業公開及び授業参観期間の拡大と学期末授業アンケートの全科目（大学院を除く）の実施について

平成 27 年度まで一科目以上と定めていた授業公開については，学部の全科目に対象を広げ，授業参観期間と合わせて大幅に拡大した（各期第 9～12 週を対象）。

《前期》･･･ 6 月 6 日～ 7 月 2 日

《後期》･･･ 11 月 28 日～ 12 月 24 日

また，同じく平成 27 年度まで各期一科目以上と定めていた学期末授業アンケート（大学院を除く）についても，全科目で実施するように改めて実施した。引き続き，インフォメーション等で周知し定着を図っていく。

ｂ．教員表彰制度導入の検討について

教員の意欲向上と教育の活性化を図る目的で提案した教員表彰制度（「ベストティーチャー賞」）は，全学部の教授会の承認を得られずに，導入は見送られた。表彰の基準としていた授業アンケート結果については，今後，ＦＤ講演会，ワークショップ，研究会等を実施する中で活用していく。

ｃ．学内での講演会や研究会の充実と関係学会への参加の促進について

平成 28 年度においても外部講師を招聘して，ＦＤ講演会を開催した。引き続き，アクティブ・ラーニングの普及に努める。

《第 1 回》･･･ 10 月 28 日，関田 一彦 創価大学教授（参加者：35 名）

《第 2 回》･･･ 平成 29 年 3 月 16 日，山本 啓一 北陸大学教授（参加者：35 名）

また，授業改善に向けた取組みを推進するために，「大学教育学会」や「初年次教育学会」など，教育関係学会等の案内を教職員に行い，「大学教育学会」には教員 2 名が，「初年次教育学会」には職員 1 名が，それぞれ参加した。全国大学の取組みや，学生や教育の実情を把握するためにも，引き続き，参加を呼びかけていく。

③教学ＩＲの充実

ａ．必要な教学データの収集・分析と関係部局への情報提供の促進について

ＩＲ担当が収集・分析した教学データは，学生部・教務部等の関係部局のほか，学部・学科にも提供した。

平成 27 年度に設置したＩＲ委員会の提案で，出席率の情報共有を図るために，全教員に担当学生の出席状況を逐次提供した。

また，中退ハイリスク学生の早期発見・早期対応のため，新入生ゼミナール担当教員に出身高校等の情報を各学期の授業開始前に提供した。

④学修支援の充実

ａ．国語及び数学に加えて平成 28 年度から英語の「基礎力アップ学習会」の新設と関係部署が連携した学生の受講機会の拡大及び「リメディアル教育」と連動した学修支援の模索について

平成 27 年度にスタートした「基礎力アップ学習会」は，国語と数学に加えて，平成 28 年度に英語を新設するとともに，開講コマ数を増やした（前・後期，各 1 コマから各 2 コマに倍増）。平成 28 年度の受講者は次のとおりで，平成 27 年度の

28 名（実数；前期 19 名，後期 9 名）を大幅に上回った。

《前期》･･･ 国語 13 名，数学 20 名，英語 28 名（実数 35 名）

《後期》･･･ 国語 19 名，数学 17 名，英語 19 名（実数 31 名）

学修支援を充実する観点から，より効果的・効率的な運営に向けて，引き続き，関係部局と教員が協力して取り組んでいく。

ｂ．「ウォーミングアップ学習（入学前教育）」の充実による高校教育から大学教育へのスムーズな移行について

平成 29 年度の入学予定者に対する「ウォーミングアップ学習（入学前教育－課題，授業体験，レッスン等）」は，予定通りに全て実施した。高校教育から大学教育へのスムーズな移行を図るために，関係部局と学部・学科が連携して取り組んでいく。

⑤学長裁量経費の新設

ａ．教育改革及び教育改善に資する取組みを強化するための教育計画に関する学長裁量経費の新設について

平成 28 年度から新設した学長裁量経費（教員提案制度）は，9 名の専任教員から述べ 11 件，総額 350 万円余りの提案があった。提案内容については，「教員提案制度審査委員会」で審査した結果，7 件を採択して（採択額：92 万円余り），全て執行した。

≪採択内容≫

・アクティブ・ラーニング対応教室の整備
・視聴覚ホールの設備改善
・学生支援及び居場所作りの提案
・授業科目の外部講師招聘費
・大福帳（授業運営や授業改善に活用）　など

⑥中退予防対策の推進

ａ．中退学者の防止を図るための新入生を対象としたＳＡ制度の拡大と新入生ゼミナールの活性化について

「新入生ゼミナールⅠ・Ⅱ」のすべてのクラスにＳＡを配置して活性化を図った。その効果もあり，1 年生の出席率は前期 87.8％で前年度比 1.3 ポイント改善が見られ，後期は 83.3％で前年度比 0.4 ポイント改善した。また，退学者は年間 17 名で平成 27 年度の 23 名から減少した。

⑦ＧＰＡ制度の導入

ａ．平成 28 年度からのＧＰＡ制度の導入とＧＰＡ値を活用した学生の学習支援の充実について

ＧＰＡが 1.5 未満の学生には，前期は 9 月下旬，後期は３月下旬までに担任又は指導教員が本人と面談し，学生には「基礎力アップ学習会」への参加を促した。ＧＰＡ1.5 未満が 2 学期連続の学生には担任又は指導教員が本人及び保護者等と面談し，学生の能力に応じた学習支援を実施した。

また，ＧＰＡ3.0 以上の学生は前期 319 名（1 年生の 52％），後期 264 名（1 年

生の 42.3%）であった。

（２）経済学部

①経済学科・経営学科共通

ａ．新入生が大学での居場所を見つけやすくするための新入生歓迎パーティーの実施について

平成 27 年度から各学科２名ずつの教員が出て４名のプロジェクトチームを作り，上級生ＳＡの協力を得て具体的計画化と準備を進め，４月７日に VinaVina において新入生歓迎パーティを学部全体で実施した。

ｂ．新入生が無理なく大学の教育環境に入っていくことを支援する新入生ゼミナールでの上級生ＳＡの導入について

全ての新入生ゼミナールに上級生ＳＡを配置したことで，出席率は向上し，退学率も減少した。すなわち，平成 27 年度と比べて，新入生ゼミナールの出席率は，経済学科では新入生ゼミⅠが 85.2%から 88.4%と 3.2 ポイント，新入生ゼミⅡが 77.1%から 81.5%へと 4.4 ポイント改善し，４年ほど前から学科としてＳＡをすでに導入している経営学科でも，新入生ゼミⅡが 81.1%から 80.2%と多少下がったものの，新入生ゼミⅠは 85.6%から 85.9%と 0.3 ポイント改善した。

また，1 年生の退学率（退学＋除籍）も，平成 27 年度と比べて，経済学科が 5.7%から 4.6%へと 1.1 ポイント，経営学科が 4.0%から 3.0%へと 1.0 ポイントそれぞれ減少し，確かな成果が確認できる。学部全学年でも 5.3%から 4.3%へと 1 ポイント減少した。

さらに，１年生の前期単位修得率と平均ＧＰＡも，単位修得率が平成 27 年度比で経済学科が 84.9%から 85.8%へと 0.95 ポイント，経営学科が 81.0%から 85.3%へと 4.34 ポイント改善し，平均ＧＰＡが平成 27 年度比で経済学科が 2.60 から 2.63 へと 0.03 ポイント，経営学科が 2.45 から 2.62 へと 0.17 ポイント改善した。

ｃ．意欲ある学生の自学自習を支援する４つの特別プログラム（公務員・教員・簿記上級・ＦＰ）の充実について

特別プログラムには公務員 14 名，教員 5 名，簿記 14 名，FP6 名が新規に参加し，継続学生を含めて合計 49 名が参加した。平成 28 年度は，簿記検定 2 級 3 名，同 3 級 2 名，FP3 級 1 名，公務員〔曽於市〕1 名，教員〔臨時採用〕2 名の延べ 9 名が報奨金を受給し，一定の成果が着実に生み出されつつある。

ｄ．「地域人材育成プログラム」や「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」への参加について

「地域人材育成プログラム」については，地域フィールド演習科目群の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を加えることによって，3 年次からとなっていた演習でのフィールドワーク参加が 2 年次から可能となり，その結果平成 29 年度よりプログラムに参加する学生の増加が期待される。

「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」には全学で 17 名（1 年）が参加し，うち経済学部からは 3 名が参加した。

なお，経済学部からは 2 年以上の 2 名も参加した（全学で 19 名）。全学での目

標は 20 名であり，それに近い数字となった。

②経済学科

ａ．学生の効率的な学習の支援について

効率的な学習を図るための新カリキュラムが平成 28 年度から始まり，開講学期や時間割は特に問題なく順調に進んだ。平成 29 年度に，新任教員 1 名（「ミクロ経済学」「マクロ経済学」）が採用されることとなり，効率的な学習を推進する体制の一部改善が期待される。

ｂ．演習指導の充実について

新カリキュラムのスタートに合わせ，新入生ゼミナールで上級生ＳＡの協力を得てプレゼンテーション力の向上やアクティブ・ラーニングの実践に取り組んだ。

また，学園理事の協力を得て，金融論の授業の 1 コマを利用して，双方向授業の模擬授業を実施し，意見交換を行った。

ｃ．インターンシップやフィールドワーク等による就業力の育成について

「地域人材育成プログラム」のゼミによるフィールドワークとして，新入生ゼミナールⅡで後期に「地域再発見バスツアー」を計画し，4 ゼミが実施した。渡辺ゼミは，「スポーツキャンプの経済効果・焼酎産業の実態調査」（日南運動公園，みやざきコンベンション協会，霧島酒造ファクトリーガーデン／新ゼミ生 16 名，ＳＡ1 名，教員 1 名，計 18 名），八木ゼミ・西原ゼミは合同で「鹿児島市の歴史的遺産見学や環境資源について学ぶ」（仙巌園・尚古集成館，かごしま環境未来館／新ゼミ生 14 名（八木ゼミ）・11 名（西原ゼミ），ＳＡ2 名，教員 1 名，計 28 名），康上ゼミは「県内企業の理解と地域ブランド調査」（黒酢本舗桷志田，堀之内農園，福留畜産，和香農園／新ゼミ生 11 名，2・3 年生ゼミ 16 名，ＳＡ1 名，教員 1 名，計 29 名）で，学部ゼミは，菊池ゼミが数年にわたってフィールドワーク（阿久根市と連携）に取り組んでおり，衣川 3 年ゼミは 11 月に「COC＋」見学ツアーを実施し，油津商店街と谷山の商店街を比較研究した。

また，国内インターンシップには経済学科で 36 名が参加した。

10 月 27 日に基礎演習（2 年生）の学生を対象にして，ＳＰＩの模擬試験を実施し，ＳＰＩに関する知識の向上を図った。

③経営学科

ａ．新入生のプレゼンテーション能力，コミュニケーション能力等の育成について

新入生のプレゼン能力等を向上させるために，7 月 21 日と 7 月 27 日の新入生ゼミナールⅠの時間をレポート発表会に充て，各クラスのチームごとにテーマを設定させ，新入生に調査・発表させた。

ｂ．１年次後期（新入生ゼミナールⅡ）での「鹿児島の経営者と語る会」の実施について

鹿児島県中小企業家同友会の協力を得て，新入生ゼミナールⅡにおいて「鹿児島の経営者と語る会」を 12 月 8 日（㈱現場サポートの福留社長）と 15 日（アフタープラス㈱の坂本社長）の 2 回開催した。

ｃ．１年次後期（新入生ゼミナールⅡ）での「外へ出て地域を知ろう」の実施につい

て

新入生ゼミナールⅡで「外へ出て地域を知ろう」を企画し，企画の中身や取組み方法について，学科会議や担当者の会議で検討した。平成 29 年度にも同種企画を効果的に取り組むために，新入生ゼミナールⅡのクラス数をどうするべきかなどの問題についても検討した。

平成 28 年度に関しては，10 月 29 日に，①坂元のくろず『壺畑』情報館／2 ゼミ（中島ゼミ 22 名，今村ゼミ 22 名），②仙巌園／3 ゼミ（山下ゼミ 15 名，福崎ゼミ 15 名，西ゼミ 14 名），③枕崎市瀬戸茶生産組合／2 ゼミ（武田ゼミ 22 名，アイリッシュゼミ 21 名）の 3 つのコースに分けて実施した。訪問後にはコースのチーム毎に 30 頁ほどの報告書を作成して，産学官地域連携センターに提出した。同報告書は平成 29 年度発行の同センターの年次報告書に掲載予定である。

ｄ．地域志向演習への取組みの検討について

産学官地域連携センターからの要請に応え，平成 29 年度の 2 年生以上の演習において，大久保副学長，山本学部長，馬頭教授，アイリッシュ准教授，武田准教授，西講師の演習が地域フィールド演習として学生を募集した。例えば，西講師のゼミ生が姶良市の商店街のマーケティング調査に取り組むことやアイリッシュ准教授のゼミ生が平成 29 年度から「日置市との地域連携協定に基づく事業」に参画することになった。

ｅ．２年次からの演習等でのキャリア形成の支援について

2 年次からのキャリア形成支援として，就職キャリアセンターの協力の下で，2 年の基礎演習で 10 月 17 日にキャリアガイダンス，10 月 24 日にＳＰＩ模擬試験受検会を実施した。

ｆ．学生の学修意欲の向上について

国内のインターンシップには，県 12 名，カバン持ち 15 名，独自開 14 名，プレ・インターンシップ 6 名，海外・香港 1 名が参加した。

（３）福祉社会学部

①現代社会学科

ａ．在学生の資格取得と卒業の実現について

平成28年度開始時点で3名の学生が在籍しており，このうち1名は現在，休学している。残り2名のうち1名が9月で卒業可能であったが，卒業できず，平成29年3月に卒業することができた。

②社会福祉学科・児童学科共通

ａ．「新入生ゼミナール」や実習などの体験的な学び（フィールドワーク），双方向的・協働的な講義・演習での主体的な学び及び資格・免許取得を軸としたキャリアデザインの支援について

社会福祉学科においては，10月8日に，新入生ゼミナールⅡにおいて，「ニコニコタウンきいれ」の特別養護老人ホームと老人保健施設を見学し，その後，認知症サポーター養成講座を受講した（参加者約90名）。福祉現場に触れることで社会福祉の学びの方向付けを行うことができた。

児童学科においては,「新入生ゼミナール」において，保育所・幼稚園・小学校・民間企業に就職した卒業生の話を聞く機会（後期8回）を計画的に設け，大学での学びのデザインを行わせることができた。

③社会福祉学科

a．主体的なキャリアデザインの支援について

8月3日に，社会福祉学科の教員とゼミ生で，熊本県の合志市社会福祉協議会の学童クラブ「くすの木クラブ」で遊びのボランティアをした。被災地の子どもたちが少しでも元気になってもらいたいと学生が企画し，学内社会福祉学会助成金を活用して実施した。結果については12月の社会福祉学会研究発表会で報告した。

7 月 16 日に鹿児島国際大学社会福祉学会シンポジウム『地元で知的障害者と「楽しく」生きる～鹿児島国際大学スペシャルオリンピックス同好会の活動と課題～』で本学科学生及び卒業生のスペシャルオリンピックス同好会メンバーが発表と意見交換を行った。

b．社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格率の向上及び社会福祉士受験対策講座などの充実について

社会福祉士国家試験における合格率向上に向けて，これまでに平成27年度受講生からの講座内容に関するヒアリング及びヒアリング内容の講座への反映，講座内における配布資料の充実，直前対策講座の企画等を進めてきた。中でも，初の試みとして外部の受験専門講師による直前講座を実施し，受験生に大変好評であった。しかしながら，社会福祉士国家試験の合格率は，全国平均をわずかに下回る結果となってしまった。

受験対策については，外部のノウハウを取り入れることなどを含め，早急に改善策を検討していきたい。

④児童学科

a．主体的なキャリアデザインの支援について

児童学会の活動は，選出された教員・学生の運営委員によって企画立案された様々なイベントや児童学会に所属する学生の自主的な研究部会の活動など，これまで同様に積極的に運営された。これに加え，平成28年度は，オープンキャンパスにおいて，児童学会が主体となって大学生活や研究部会の活動などを体験してもらうような企画を実現することができた。

また，学校支援ボランティアの活動にも，多くの学生が参加した。例えば，鹿児島幼稚園支援（例年どおり，7 月夏祭り・10 月運動会に参加し，12 月発表会・2 月節分にも参加），近隣小学校（清和小・西谷山小・和田小・錦江台小・福平小・平川小・荒田小・八幡小就業支援）及び 吉野学園でのボランティア活動を行った。

また，複数のゼミにおいて，県内の小学校と連携して，学生の現場体験（フィールドワーク）を継続的に展開した。

b．「特例講座」の確実な運営について

「特例講座」には，保育士資格取得希望者 65 人・幼稚園教諭免許取得希望者 38 人の申込みがあった。実習支援課を中心に教務部の協力のもと，諸般の事務手続き

が滞りなく処理されるとともに，担当教員の熱心な講義がなされ，保育士資格は61 人，幼稚園教諭免許は 37 人が取得見込みである。

なお，平成 29 年度も一定数の受講希望者があり，開講することになった。

（４）国際文化学部

①国際文化学科

ａ．学生の個性に応じた個人教育の充実について

1 年次から 4 年次まで一貫したゼミナールを通した少人数教育を行った。問題を抱える学生（日本での生活に溶け込むことが困難な留学生など）に対しても，ゼミナール担当教員を中心に，学科長，関係教員が連携して細かな指導を行った。

ｂ．フィールドワークを中心とする科目の設置による学外における体験型教育活動の充実について

フィールドワークを中心とする科目として「フィールドアクション A/B」を設け，2・3 年次のゼミナールで行っている学外活動への参加，野外調査実習，学科主催イベントである「物語プロジェクト」の企画・広報・出演など，体験学習の機会を積極的に促した。

「新入生ゼミナール II」では 10 月 29 日に全体でフィールドワーク（鹿児島ぶらりまち歩き）を行い，学生たちが地域の文化・自然に対する興味と，鹿児島観光の現状への理解を深める効果があった。

「物語プロジェクト」では，11 月 26 日に直木賞作家の朝井リョウ氏，コメントコンテストで選ばれた地域の高校生 2 名を招いて，「語る会」を催し，300 名を超える来聴者を集めた。

ｃ．ＳＳＤ(学科学生スタッフ)やＳＡ，ＴＡを活用した学生の自主性・創造性・リーダーシップの育成について

新入生歓迎会ではＳＳＤ(学科学生スタッフ)が教員と連携しながら活躍し，新入生とその保護者に好評であった。「新入生ゼミナール I/II」の全クラスに配置されたＳＡは，授業のみならず，履修方法や学習計画の相談にも積極的に関わり，大きな効果があった。

ｄ．留学生の支援の充実及び留学生と日本人学生の交流の深化について

留学生支援については，特に日本での生活に溶け込むことに困難を抱える留学生に対して，学科長のリーダーシップのもと，ゼミナール担当教員，関係教員が連携して支援を行った。日本語教員養成課程の学生，国際交流活動に関心を持つ学生たちを中心とする留学生との交流活動も継続的に実施した。

ｅ．休学者や留年者，退学者の減少及び学生の活発な就職活動の支援について

クラス担任，ゼミナール担当教員を中心に出席不振学生に対する指導に取り組んでいるが，残念ながら平成 27 年度に比べ，退学率が悪化する結果となった。特に 1 年次学生の退学者が増えているので，原因を検討し，改善を図りたい。

また，ゼミナール担当教員によるエントリーシート添削などの就職活動支援を行なった。

②音楽学科

ａ．学生と教員間のコミュニケーション強化について

学生と教員，専任教員と非常勤講師間のコミュニケーションを随時心掛け，学科会議等を通じて情報交換を行いながら学科全体としての教育体制で取り組んだ。専任教員と非常勤講師による「音楽学科懇親会」を 5 月 19 日に開催し，親睦や，情報交換を行った。

ｂ．学科独自のＦＤ活動の充実及び教育成果の地域還元について

授業公開，授業参観，授業アンケート等など大学全体のＦＤ活動に取り組んだほか，学科独自のＦＤ研修会（公開授業と意見交換会）を 1 月 20 日に実施した。

また，以下の公開講座，特別講座，講習会等を通じて，教育成果の地域還元を図った。

5 月 14 日：中高生のための管打楽器講座＆指導者のための指揮法講座
7 月 17 日・8 月 7 日：2016 夏期受験講習会
7 月 31 日：弦楽器講習会
8 月 9 日：ピアノ特別講座
12 月 4 日：鹿児島国際大学教員による中高生のための管打楽器講座
12 月 6 日：公開講座「和声Ⅳ」
12 月 20 日・27 日：公開講座「音楽科教育法Ⅳ」
3 月 7 日：特別講座「作曲法とエレクトーン演奏法」
3 月 20 日：中高生のための管弦・打楽器講座

ｃ．潜在能力の高い学生の引上げ及び目標未発見学生の修学支援について

個人レッスン，新入生ゼミ，演習等で十分に行った。

また，学科及び各コース主催の演奏会や講座等の計画，準備，参加，撤収等に取り組ませることで，学生の就学支援を行った。

ｄ．進路・就職の支援体制の強化について

就職キャリア委員を中心に企業説明会，資格講習会への参加を強く促した。

また，インターンシップに関する周知も行い，参加する学生がいた。

なお，平成 28 年度の就職率は，平成 27 年度に引き続き 100％を達成した。

ｅ．少人数教育（レッスン，演習），フィールドワーク，海外研修，国際交流，演奏会活動などを通じた就業力育成について

レッスン，授業，演習を通してマナーアップを図り，フィールドワークや海外研修への参加及び以下の演奏会や本学主催コンクール，オープンキャンパス等の運営に学生が関わることで就業力育成を行った。

5 月 13 日：第 16 回教員定期演奏会
7月 3日：津曲学園キャンパスフェスタ
8月8・9・24・25・27・28日：第6回鹿児島国際音楽コンクール
11月22日：第7回吹奏楽演奏会
12月 3日・18日：教会音楽シリーズ『クリスマス・オラトリオ』全Ⅳ部
12月 9日：第7回学生定期演奏会

2月22日：第8回吹奏楽演奏会
2月25日：オペラ『ドン・ジョヴァンニ』公演
3月 2日：ピアノ課程・ピアノ演奏家課程2年生・4年生合同演奏会
3 月 9 日：第 4 回卒業演奏会

（５）大学院経済学研究科

①学会発表や学会誌及び本学の『大学院学術論集』への投稿の促進について

学会・国際研究会議では，国内学会（4 月）8 人，国際学会（中国洛陽：5 月）8 人，国際学会（韓国釜山：8 月）6 人が報告した。また，学会誌・査読論文集投稿件数は 5 件であったが，『大学院学術論集』への投稿はなかった。

なお，平成 28 年度学会発表助成申請は，博士前期課程 3 件，博士後期課程 11 件であった。

②カリキュラム及びスタッフの構成について

博士前期課程の選択必修科目を見直すと共に，科目「管理会計」「中小企業経営」「インターンシップ」を新科目として追加した。

博士前期課程においては，2 名の新任教員を追加，学部と併せて平成 29 年度から「管理会計」と「中小企業経営」を担当してもらうことにした。博士後期課程においては，博士前期課程の 2 名の教授を博士後期課程の研究指導教員，授業科目担当教員として審査，研究科会議で承認された。その結果，大学院設置基準に示された博士後期課程における教員数の不足が平成 29 年度から解消される。

③外国で活躍する日本人学生について

日本人学生は，授業その他のイベントを通じて留学生と接触したと思われるが，形になっては表れていない。平成 29 年度から開講する予定のインターンシップは海外インターンシップも含むので，オリエンテーション等で積極的な参加を促したい。

④外国人留学生による帰郷の際や就職先での本学のアピールについて

留学生は，国外の学会参加での活躍，国内のホテル等への就職や母国に帰って大学の教員になることで本研究科での学びを紹介した。

⑤入学時点及びその後のキャリア教育とインターンシップなどへの参加支援について

国内外でのインターンシップには，平成28年度本研究科生の参加者はいなかったが，平成29年度は，インターンシップを単位化するため，オリエンテーション等で積極的に参加を促す。

⑥各種補助金の積極的な獲得について

留学生は各種の奨学金や補助金獲得（本学の減免制度を含む）に熱心で，ほとんどの留学生が何らかの助成を受けた。

（６）大学院福祉社会学研究科

①スタッフ減の対応及び博士論文指導の適切な実施のためのスタッフの充実について

平成 29 年度より博士前期課程で教授 1 名と講師 1 名が講義担当となり，博士後期課程で教授 1 名が講義及び論文指導担当となった。

②院生の教育研究能力向上のための学会研究発表や大学院学術論集投稿の推奨，ＴＡの積極的な活用，院生主導の研究会開催等について

大学院学術論集に本研究科在学生の論文２件，研究ノート２件が掲載された。

また，博士後期課程２名が学会発表助成を受けて，全国規模の学会で研究発表を行った。ＴＡとして前・後期とも本研究科在学生が１名ずつ採用された。

なお，1 月 21 日に本研究科在学生による自主研究会を開催した。

③指導教員による計画的指導，中間報告会等の適切な実施について

オリエンテーション時の論文作成要領説明会，論文中間報告会等，日程に沿って実施した。

④受講生の利便性を考慮した授業の実施について

各授業において教員と学生とが協議し，学生の状況や希望に合わせて教室や授業日時の変更等，学生の利便性を考慮した授業を実施した。

⑤学生支援の方策の検討について

福祉社会学研究科あり方検討委員会を組織し，今後の学生確保や学生支援の方策について検討し，検討内容の一部を研究科会議および入試・広報課に報告した。平成 29 年度も引き続き検討を行う予定である。

（７）大学院国際文化研究科

①海外交流協定校との間の交換留学生の派遣と受け入れの推進及びインターンシップ内容の充実について

海外交流校から交換留学生を受け入れたが，本研究科の学生の派遣は実現に至っていない。夏休み期間中，博士前期課程１名の学生が海外の企業でインターシップをした。平成 29 年度から「国際インターンシップ〈D〉」を実施する予定である。

②音楽学関係における博士前期課程学生の教育・指導体制の強化及び博士後期課程学生の指導体制の構築について

音楽学関係の学生の教育・指導体制を強化するため，音楽関係の専任教員の演習担当資格審査を行った。1 名が平成 29 年度から博士前期課程(修士課程)の演習と「楽曲研究特殊講義Ⅰ」「楽曲研究特殊講義Ⅱ」を担当することになっている。

なお，音楽学関係の博士後期課程の指導体制の強化は着手することができなかった。

③副指導教員体制を維持した留学生の論文指導の強化について

副指導教員体制を維持した留学生のための「日本語論文研究」を科目として開講し，多数の受講生がいた。

④学生の学会発表の指導の強化について

学生の学会発表や論文投稿の指導に力を入れ，前期課程と後期課程を合わせて３名の学生が学会で研究発表をした。『鹿児島国際大学大学院論集』（第８集）に博士後期課程の学生の論文が２篇掲載された。

⑤「坂之上言語・文芸研究会」への支援強化による学部生や社会人への研究科の情報や魅力の発信について

10 月 1 日に第１回，12 月 10 日に第２回の「坂之上言語・文芸研究会」を開催し，合わせて４名の国際文化研究科の学生と１名の非常勤講師が研究を発表した。学部生や社会人により強く研究科の情報や魅力を発信した。

３　研究計画

大学として，科学研究費など外部資金の獲得強化を目指し，平成 28 年度の科学研究費には，研究代表者として教員 3 名が新規に採択された。

外部資金の獲得を強化するために，科研費に採択された研究者への「科学研究費等採択助成金」及び不採択だった研究者への「研究支援費」を設けており，平成 28 年度は次のとおり付与した。

「科学研究費等採択助成金」･･･ 28 名（総額 109 万円）

「研究支援費」･････････････････ 10 名（総額 50 万円）

「ひらめき☆ときめきサイエンス」については，小・中学生 18 名を対象に 7 月 31 日に，中・高校生 21 名を対象に 8 月 11 日に，いずれも学内で実施した。なお，中園教授のグループが，県内で初めて「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞した（全国で 20 件が受賞）。

また，文部科学省が発表した二つの「ガイドライン」（①研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン，②研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン）を踏まえて，大学の関係規程を制定するなど，学内の体制を整備した。さらに，責任ある研究活動を推進するために，「研究倫理委員会」のもと，全教員と大学院生全員を対象に，研究倫理教育を実施した。

研究活動については，個人（研究者）はもとより，研究機関（大学）に対しても厳しい目が向けられている。各大学は，研究活動の不正防止に関する取組を一層推進することが求められており，今後も関係省庁や他大学の動向等を注視しながら，更なる整備と充実を図っていく。

また，故清水盛光氏から受け継がれた財産を長男の故清水韶光氏の遺言書に基づき，学校法人津曲学園に約 4,350 万円の寄附の申し出があり，平成 28 年度から数年間に限り，①鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科博士前期課程・博士後期課程の学生の研究のための補助として 1,000 万円，②鹿児島国際大学附置地域総合研究所の基金プロジェクト研究などの研究助成金として 3,000 万円（うち 1,000 万円は京都女子大学地域連携センターへの分担研究に係る助成金），③事務経費等として 350 万円を使用することで合意，寄附を受け入れることとなり，「清水基金」を設立した。

その遺贈の目的を達成するために，「鹿児島国際大学における清水基金の管理運用に関する規程」を制定の上，寄附研究部門（「清水基金による大学院プロジェクト研究及び大学院生の個人研究への助成」並びに「清水基金プロジェクト研究」）を設置し，2 月 20 日に第 1 回清水基金運営協議会を開催，基金の管理運用に関する審議を行った。

さらに，分担研究者（竹安栄子京都女子大学特任教授）との覚書も締結した。

なお，「清水基金」に係る本格的な研究は平成 29 年度から始動することとなる。

地域総合研究所においては，次のとおり 4 件の受託事業に取り組み，日本ガスを除く 3 件の事業を契約期限までに完了した。

・南大隅町「南大隅町地域福祉計画策定助言事業」（業務委託料　497,680 円）【継続】

・鹿屋市社会福祉協議会「地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査事業」
（業務委託料　336,000 円）【継続】

・姶良市「姶良市商工業者景況調査事業」（業務委託料　1,105,830 円）【新規】
・日本ガス「鹿児島における再生エネルギーを核とする経済振興策の検討と，雇用創出の可能性事業」（業務委託料　540,000 円）【継続】
※契約期間が，平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日のため，事業進行中である。

（1）経済学部

①経済学科

ａ．紀要への投稿の促進について

紀要への投稿者が増加しつつあり，平成 28 年度は学科の 4 名の教員が投稿した。

ｂ．学科主催の研究会の実施について

学会委員会主催学内講演会を，福浦幾巳氏（西南学院大学）「学生の自学自習を支援する WEB を利用したシステムの設計と効果～E-Learning システム『ヨーイドン簿記』の実践～」（10 月 20 日）と，馬奈木厳太郎氏（弁護士）「『大地を受け継ぐ』から見える福島の現在」（12 月 2 日）の 2 回開催した。

学科主催の研究会を平成 29 年 3 月 7 日に開催した。報告者は，西原教授と八木教授であり，合計 7 名の教員が参加した。研究報告は，イギリスの EU 離脱とエネルギー問題に関するものであった。

ｃ．卒業研究発表会の開催について

経済学科の「卒業研究」発表会を平成 29 年 2 月 10 日に開催した。4 年の演習の学生がグループや個人で卒業論文の発表を行った。また，卒業論文執筆者と論題の一覧を作成して配布した。初めての試みであり，学生の参加者が少なかったので，平成 29 年度には開催時期等について再検討することになった。

②経営学科

ａ．有意義な新入生ゼミナールのあり方を探求するための上級生ＳＡの教育方法の経営学科教員全員による研究について

上級生ＳＡの教育方法の研究の一環として，10 月 19 日に NEWVERY を交えて開催された「新入生ゼミＳＡ研修運営についての意見交換会」に教員 2 名が参加した（なお経済学科では教員 2 名が参加した）。

ｂ．学会委員会主催の学内講師や外部講師による研究会について

学会委員会主催学内講演会を，福浦幾巳氏（西南学院大学）「学生の自学自習を支援する WEB を利用したシステムの設計と効果～E-Learning システム『ヨーイドン簿記』の実践～」（10 月 20 日）と，馬奈木厳太郎氏（弁護士）「『大地を受け継ぐ』から見える福島の現在」（12 月 2 日）の 2 回開催した。

ｃ．学術研究を推進し深化させるための図書関連資料の充実について

学科選定図書委員が教員推薦図書を購入し，図書館に所蔵された。

ｄ．紀要への投稿の促進について

紀要への投稿者が増加しつつあり，『鹿児島経済論集』第 57 号第 1 号（2016 年 10 月）に山下教授と奥平准教授が寄稿し，『鹿児島経済論集』第 57 号第 2-4 号合併号（2017 年 3 月）に青木准教授が寄稿した。また『地域総合研究』第 44 号第 1 号（2016 年 9 月）に大久保副学長が寄稿した。

（２）福祉社会学部

①現代社会学科・社会福祉学科・児童学科共通

ａ．学会紀要や専門雑誌における研究成果の積極的な発表及び外部資金の獲得について

学部論集は，例年どおり年 4 回で発行した。また，平成 28 年度は科学研究費補助金の新規獲得者が 1 名，継続受給者が研究代表者 1 名，継続研究分担者が 10 名（社会福祉学科 7 名，児童学科 3 名）であった。

②現代社会学科

ａ．現代社会学会活動における学生との協働による研究成果の公表について

2 名の学生がこの活動を続けていた。うち 1 名の卒業が確定したので，現代社会学会の名でお祝いを行った。

③社会福祉学科

ａ．学生と協働によるソーシャルワーカーデー及びシンポジウム等の開催について

7 月 9 日にソーシャルワーカーデ―のシンポジウム「マイノリティに寄り添う支援～ソーシャルワークの視点から」を開催した。参加者は約 170 名であった。

7 月 16 日に鹿児島国際大学社会福祉学会シンポジウム「地元で知的障害者と「楽しく」生きる～鹿児島国際大学スペシャルオリンピックス同好会の活動と課題～」を開催した。シンポジウムでは，鹿児島国際大学スペシャルオリンピックス同好会の活動を取り上げ，津曲学長を指定討論者として招き，大学同好会によるスペシャルオリンピックス活動の意義と課題について，事務局長の視点から討論に参加していただいた。参加者は約 80 名であった。

④児童学科

ａ．学生と協働による外部の幼児教育・初等教育関係者や卒業生等を交えた学びのイベントの開催について

例年どおり，現職の小学校教諭2名を招いて，12月17日に児童学会主催の講演会を開催した。

また，複数名の教員が鹿児島幼稚園と共同の実践的研究を展開した。

（３）国際文化学部

①国際文化学科

ａ．学部主催の「学内研究会」の充実及び地域との「文化交流」を図った学生の主体的な研究の促進について

学部主催の「学内研究会」については，平成 29 年 1 月 18 日に小林洋子氏（鹿児島県副知事）を招いて，学内講演会「女性の活躍が切り拓く地域の未来」を開催し，本学学生，教職員，地域の市民を含め約 100 名が聴講した。新聞，テレビ等でも大きく取り上げられ，地域コミュニティとの文化交流の一助となった。

また，2 月 27 日には，井上教授，種村教授，山田教授の最終講義を開催し，こちらにも地域の市民や県外からの来聴者を含む多数の聴講者があった。地元紙に記事が掲載されるなど，学部の教育研究活動の地域還元と広報に一定の効果があ

った。

b．学部の紀要の充実及び執筆者の確保について

学部の紀要『国際文化学部論集』は6月に第17巻第1号，9月に同第2号，12月に第3号，3月に第4号と計画通り順調に刊行した。

②音楽学科

a. 『教員定期演奏会』や『国際文化学部論集』の充実及び研究成果の地域還元の促進について

5月13日に開催した「第16回教員定期演奏会」に加え，学科所属の教員，学生が様々な形で携わる演奏会が開催された。また，本学科教員の研究成果を『国際文化学部論集』第17巻 第2号及び第17巻 第4号で発表し，研究成果を地域に還元した。

b．公的機関や芸術文化団体等からの要請に積極的に応じることによるさらなる地域貢献について

市の機関，学校等からの要請により演奏会等を実施した。また，9月17日に九州・沖縄作曲家協会主催の「第36回九州・沖縄現代音楽祭」を本学で開催し，多くの学生が出演者・スタッフとして参加した。

c．個々の演奏活動や研究活動の充実及び大学広報やマスメディア等を通じた情報発信について

大学・学部・学科の各ホームページや学部Facebookで，教員，学生，卒業生による様々な活動を情報発信した。

また，新聞・放送・雑誌・専門誌等で本学科の取り組みが大きく報道され，地域社会に対する本学・本学科の周知に貢献した。

（4）大学院経済学研究科

①学会発表，学会誌及び『大学院学術論集』等への投稿について

教員については，国内学会で8名，国際学会で1人が報告・発表した。また，教員の専門書出版は1件，学会誌投稿件数は国内11件，国外1件であったが，『大学院学術論集』への投稿はなかった。

②フィールドワークなど実践的教育に関する積極的な参加について

フィールドワークなど実践的な教育を論文作成のためのアンケート調査等を通して行った。

また，インターンシップを授業科目に加えたことにより，平成29年度以降は，インターンシップ参加者が増えるようオリエンテーション等で参加を勧める。

③博士学位取得者輩出の増加について

1名の留学生から博士学位請求論文が提出され，審査及び最終試験の結果合格となり，3月に「博士（経済学)」が授与された。

なお，博士学位取得には留学生の方が熱心なため，減少傾向にある留学生の増加について，教学検討委員会で検討した結果を研究科会議で了承した。それをもとに研究科長会議で3研究科統一案を作成，各研究科会議で審議し承認された。

（5）大学院福祉社会学研究科

①地域連携共同研究の推進及び外部資金の積極的導入

ａ．科学研究費等の積極的な導入及び県社会福祉士会等との連携・情報交換について

科研費(基盤(Ｂ))「琉球弧型互助形成にみる島嶼防災と地域再生実践モデルの開発評価に関する研究」(代表者：田畑教授）が進められた。平成 29 年度より清水基金に基づく大学院プロジェクト研究を教員と学生により実施する予定である。

②研究科主催の公開シンポジウムの開催

ａ．研究科主催のシンポジウム・講演会・研修会等の開催について

11 月 12 日に本研究科主催公開シンポジウム「大学教育と専門職教育の連動性について」を開催した。鹿児島県社会福祉士会，精神保健福祉士協会，介護福祉士会の代表者等がシンポジストとなり，県内専門職団体と大学・大学院との連携に関する議論が行われた。

（６）大学院国際文化研究科

①修士論文作成における指導の充実

ａ．副指導教員（非常勤講師を含む）体制の維持について

修士論文作成における指導の充実を図るべく，指導教員のほかに副指導教員を配置した。

ｂ．留学生の論文指導の強化について

外国人留学生に「日本語論文研究」を履修するよう指導し，併せてすべての学生のために「英語論文研究Ⅰ」「英語論文研究Ⅱ」を開講した。

②博士学位取得者の輩出

ａ．課程博士学取得者の輩出について

在学生 1 名から博士学位請求論文が提出され，最終試験と論文審査に合格した。

ｂ．学生の学会発表の指導強化について

学生の学会発表や論文投稿の指導に力を入れた。前期課程と後期課程を合わせて 3 名の学生が学会で研究発表を行った。『鹿児島国際大学大学院論集』(第 8 集)に博士後期課程の学生の論文が 2 篇掲載された。

4　産学官連携の取組み

平成 27 年度に設置した産学官地域連携センター及び生涯学習センターにおいては，地域への教育・研究に関する情報発信拠点としての役割を果たすとともに，地域社会の課題解決を図り，その成果を地域へ還元すべく，各種事業に取り組んだ。

また，平成 27 年 10 月から開始した COC 推進事業については，教育プログラムを一部変更し，教員・学生が参加しやすいプログラムへと改変を行い，平成 29 年度からの実施に備えた。

なお，平成 28 年度は「地域とともに歩み，社会に貢献し続ける大学」を目標とする「産学官地域連携推進ビジョン」を策定した。

（１）産学官地域連携事業の推進について

新たな連携先として，4 月に鹿児島商工会議所，7 月に日置市と包括連携協定書を締結し

たほか，株式会社スターフライヤーと連携協力の協定を更新した。

また，鹿児島県（ふるさと水土里の探検隊），鹿児島市（「喜入旧麓地区景観形成重点地区調査」など），阿久根市「阿久根市地域活性化事業」及び「肥薩おれんじ鉄道利用促進事業」），西之表市（伝統行事「種子島鉄砲まつり」への参加，「観光モニターツアー調査・商店街調査事業」及び「留学生を活用したモニターツアー事業」），南大隅町（産直の学び），大和村（大和村地域振興事業）などとの連携協定に基づくフィールドワーク等の教育活動を実施し，地域社会の課題解決に取り組んだ。その他，三島村の小・中学校で学生 4 人が教育現場を体験した。

（２）高大連携事業の推進について

同一学園系との連携事業として，7 月に鹿児島中央駅の AMU 広場で「津曲学園キャンパスフェスタ 2016」を開催し，産学官地域連携センターブースを置き，各連携自治体の協力を得て大学を PR した。

同一学園系高大連携事業として，6 月に平成 29 年度に教育実習を予定している学生 65 名が鹿児島高等学校で授業参観を行うとともに,9 月には鹿児島高等学校情報ビジネス科との協働により，文化祭のにこにこ市に連携先の日置市の協力を得て参加した。

また，鹿児島修学館高校からアクティブラーニングの模擬授業（教員向け研修会）の要請があり，本学の教員が講演と模擬授業を行った。

さらに，県内高校との連携については，第 1 回「高校生 よかアイデアコンテスト」を実施し，10 高校から 179 件の応募があった。1 月の一次書類審査（15 件を選考）を経て,2 月にプレゼンテーションを含む最終審査を実施（高校生 85 名を含む約 100 名が参加),学長賞・優秀賞・準優秀賞・審査員賞等を表彰した。

（３）生涯学習事業の推進について

地域社会への貢献を目的として，第 1 回公開講座「明治維新 150 周年によせて 薩摩スチューデントの国際交流に学ぶ」を開催し，76 名の参加があった。(8/7)

高齢者を対象とした第２回公開講座については,「高齢者が住み慣れた自宅で生活を続けるために」のテーマで開催した。講師は本学教員と鹿児島市保健所職員で，参加者は 67 名であった。(8/30)

また，第３回公開講座では講師に長島町の井上副町長を招き,「地(知)の拠点（COC）シンポジウム『地方創生と大学の役割』」を開催し，227 名（うち学生 105 名）の参加があった。(10/6)

さらに，第 4 回公開講座を「坂之上移転 50 周年記念ワークショップ」として実施した。地域住民や自治体・企業等から 86 名,学生及び教職員 344 名，総勢 430 名が参加して「谷山・坂之上地域の未来を語る」ワークショップを実現した。(1/20)

（４）COC（Center of Community）事業の推進について

4 月のオリエンテーション時に，平成 28 年度からスタートした COC 教育プログラムについての説明会を開催し，学生への周知を図った。また，7 月に教育プログラム開発委員会及び地域人材育成委員会を開催し,「地域人材育成プログラム」の一部変更について協議した。その結果，3 年次からとなっていた演習でのフィールドワークを 2 年次から可能とし，学生及び教職員がより参加しやすいプログラムに変更した。

3 月には，地域人材育成委員会及び教育プログラム開発委員会の合同委員会を開催し，平成 28 年度の事業報告や平成 29 年度の事業計画（案）を中心に審議を行った。

フィールドワークについては，鹿児島市（喜入旧麓地区景観形成重点地区調査），阿久根市（地域活性化プロジェクト），西之表市（観光モニターツアー・商店街調査）をはじめ，南大隅町，大和村など事業協働地域において従来からの連携事業を継続して実施したほか，COC 教育プログラムに基づき３学部によるフィールドワークに 368 名の学生が参加した。その結果，平成 28 年度にフィールドワークに参加した学生は延べ 640 名に上った。

COC+参加校としては，かごしま学卒者地元定着促進協議会（2/3），COC+教育プログラム開発委員会（9/9，2/3）をはじめ，COC+事業協働機関連絡会議（4/27，6/23，8/23，1/20）など，合計 10 回の会議に出席したほか，平成 28 年度は，九州・沖縄 COC 合同シンポジウムが COC+大学である鹿児島大学が当番校となり，開催され，本学も参加協力した。（10/29）

なお，第 3 回生涯学習公開講座の開催に際しては，COC シンポジウムとして共催し，長島町や南大隅町の事例をもとに，「地方創生と大学の役割」についてディスカッションや質疑応答が行われ，地域住民や事業協働機関との連携を一段と深めた。

５　国際化の推進

（１）国際交流事業の充実について

国際交流支援室の移管に伴い，留学生チューター制度及びバスツアー（5 月，10 月），地域との交流会（カルタ大会　8 月，新年会　1 月開催）の実施など国際交流の促進を図るとともに，国際交流会館の防災訓練（9 月）の実施や，会館を活用した毎週一回の「日本語課外教室」を前期・後期に実施し，留学生の支援を行った。

また，谷山ふるさと祭り（10 月），鹿児島県特産品協会の県産品モニター求評会（10 月），種子島モニターツアー（1 月），日本語スピーチコンテスト（1 月）など，留学生の参加による国際交流活動を実施した。

さらに，学外交流団体等の受入については鑑真プロジェクトの中国大学生受入交流会（3 月）を行った。今後も学内外の国際交流活動の機会に学生・留学生の積極的な参加を促していく。

（２）留学生受入を目的とした海外拠点開拓について

海外でのオープンキャンパスを台湾・繁田塾（平成 28 年 4 月開催　23 名参加，平成 29 年 3 月開催　13 名参加），中国・昆山の一番日本語学校（平成 28 年 10 月開催 10 名参加），中国・大連外国語大学（平成 29 年 3 月開催　66 名参加）で実施した。その結果，中国・昆山からは 1 名が研究生として入学する予定となっている。

海外協定校については，中国内陸部の河南科技大学及び西安外国語大学との協定案について先方と連絡を取りながら学内で協議を行い，平成 29 年 3 月現在両大学へ提案中である。

また，台湾師範大学とは 10 月に協定更新し，高雄應用科技大学とは協定更新の同意を得ている。さらに，培材大学への職員派遣（平成 29 年 3 月）を実施した他，今後の英語圏からの留学生受入のために西欧圏（イギリス）大学調査（平成 29 年 2 月 28 日～3 月 5 日）を行った。

なお，香港城市大学との連携について，9 月の海外インターンシップ実施時に交流がで

きたこともあり，引き続き交渉を進めていく。

（３）海外留学・海外インターンシップの充実について

交換留学生の派遣については，前期 4 名，後期は清華大派遣学生として 5 名を派遣し，交換留学生の受入については，前期 4 名，後期 3 名を受け入れた。平成 29 年度は，前期 6 名，後期 2 名の派遣を予定し，受入については，前期 3 名を予定しており，継続的に事業を実施していく。

また，北米・西欧圏との交流促進のため，平成 29 年度新規事業として「留学準備講座」の設置を計画している。

海外インターンシップについては，9 月 3 日～14 日の日程で，従来の中国コース・台湾コースに加え新規に香港コースを実施し，3 コースについては学内報告会（12 月）を開催した。また，平成 27 年度に引き続き，2 月 11 日～3 月 3 日の日程で，富士ゼロックスシンガポールインターンシップを実施した。アジア圏ではあるが，内容は英語を基本とした研修内容であり，今後も継続して実施できる見込みである。平成 29 年度は，これら 4 コースの内容の充実を図りたい。

６　学生募集計画

（１）学生募集の全学的な取組み

①教育の実践内容や学問分野を高校教員・生徒へ具体的に伝えるための教員の高等学校訪問と進学相談会への参加の強化及び就職キャリアセンターとも連携した教職協働で取り組む募集体制の構築について

教職協働による高等学校訪問及び進学相談会は，教員が高等学校側に教育内容や研究成果を伝えることで，本学への理解が深まり，生徒への情報がタイムリーに伝わるとともに，本学で学ぶ意義・意味の浸透につながることから，教員と事務職員が一体となって，新たな募集体制を構築して実施した。

高等学校訪問は，4 月から 8 月にかけては 20 校に留まったが，9 月以降は訪問先の高等学校長との日程調整を省略し，教員の講義と入試・広報課の業務等の重複を早めに解消した結果，最終的に年間 99 校訪問することができた。

また，12 月に就職キャリアセンターの職員と市内 7 校を訪問し，各高校の就職状況について説明するとともに，本学の県内就職の有利性についても説明を行った。

進学相談会は，次の 3 会場においては，各学科の教員が教育内容，取得できる免許・資格，ゼミでの学習，学生生活活動，就職状況等について説明を行った。

・6 月 22 日

鹿児島アリーナ：参加教員 11 名，全体動員 2,654 名，本学ブース来場 244 名

・7 月 5 日

鹿児島アリーナ：参加教員 7 名，全体動員 1,588 名，本学ブース来場 80 名

・9 月 23 日

ジェイドガーデンパレス：参加教員 6 名，全体動員 480 名，本学ブース来場 36 名平成 29 年度は，各学科 3 名の高等学校訪問担当教員を選任するとともに，課長級事務職員 9 名に入試・広報課参事として併任を行い，各地区の高等学校訪問を担当するな

ど全学体制の一層の強化を図る予定である。

②入学説明会での普通科生徒の志願者を増加させるための大学特に本学で学ぶ意義・意味の説明及び女子生徒の志願者を確保するためのオープンキャンパス等での女子生徒を意識した催し（女子カフェ等）の実施について

普通科及び女子生徒の志願者確保のために，入試説明会・オープンキャンパス等において，短大・専門学校との差別化を図る資料に加え，学科ごとのパワーポイント資料も作成し，iPad での積極的な広報を行った。

入試説明会は，各学部長から大学での学びに関する説明を新たに加えて実施したことにより，本学の教育に対する理解が一層図られ，高等学校教員から高い評価を得ることができた。

オープンキャンパスでは女子カフェを実施し，第 1 回約 80 名，第 2 回約 70 名，第 3 回約 70 名の参加があり好評だった。

また，第 1 回で実施した初企画のファッションショーは，約 200 名の高校生の参加があり好評だった。

平成 29 年度も女子生徒を意識した催しを実施する予定である。

③県外からの志願者を確保するための宮崎県，沖縄県の駐在員による県外の高等学校との連携について

宮崎県に駐在員 1 名を配置し，高等学校訪問及び進学説明会への参加を強化する予定であったが，健康上の理由により 5 月で退職となり，6 月以降は入試・広報課職員が業務の合間の中で行ってきたが，行き渡らず，志願実績は 38 名から 16 名と減少した。

なお，平成 29 年度からは，新たに宮崎県の駐在員 1 名を確保した。

沖縄県の駐在員については，業務内容を見直し，平成 28 年度は進学相談会への参加に特化した形態を採ったが，志願実績は 3 名から 2 名となりほぼ横ばいであった。

④離島からの志願者の利便性及び志願者確保のための推薦入学試験における奄美会場の新設について

推薦入学試験の学外試験場である那覇会場に加え，平成 28 年度は，志願者の利便性を鑑み，奄美会場を新設し，4 名の受験者があった。

平成 29 年度も引き続き志願者の利便性のため，奄美会場を継続する。

⑤「国際化ビジョン」に基づくアジア地域の外国人留学生を確保するための外国でのオープンキャンパス等の実施について

アジア地域での外国人留学生を確保するために，企画・国際課と連携を図りながら，平成 28 年度は台北（4・5 月）及び昆山（10・12 月）において，オープンキャンパス及び現地試験を実施する予定であったが，昆山は大学院研究生の志願者のみであったため，インターネットでの現地面接を実施した。

また，台北は福祉社会学研究科修士課程に 1 名志願者があり，現地試験を実施したものの，本人の諸事情等により入学まで至らなかった。

なお，3 月には大連・台北でオープンキャンパスを開催し，台北 13 名，大連 66 名

の参加があった。

平成29年度も引き続き継続し，外国人留学生の確保に努める。

（２）オープンキャンパスの充実

①オープンキャンパス委員会の継続的な開催とオープンキャンパスの更なる内容の充実について

オープンキャンパス委員会を4月に開催し，平成28年度の計画や今後の方向性等を検討し，確認した。

オープンキャンパスは，学内4回，新規の都城を含む学外3回，キャリアアップをねらいとした鹿児島高校普通科2年生を対象とした1回，海外3回の計11回を開催して総計1,330名を動員した（平成27年度比94名減）。

特に工夫･改善した主な内容は，模擬授業やキャンパスツアー等のイベントに加え，「キャンパスライフが楽しくなるイベント」として次のようなイベントを実施した。

・（新規）「ファッションショー」→第1回，第3回にて実施した。
高校までは制服，大学からは私服となり，その着こなしを本学学生の提案で実施した。

・（新規）「高校生ダンスコンテスト」→第2回にて実施した。
若者文化の情報発信として実施した。

・（新規）「男子ごはん」→第1回，第2回にて実施した。
大学進学に向けて一人暮らしのサポートとして実施した。

・「女子カフェ」→第1回，第2回，第3回にて実施した。
女子高校生を対象に，本学女子学生とのケーキバイキング付きのガールズトークを取り入れて実施した。

以上4つのイベントで，「ファッションショー」「女子カフェ」は特に好評を得た。

また，鹿児島高校普通科2年生対象のオープンキャンパスは，「キャリアアップセミナー」と名称を改め，授業体験に加えて大学で学ぶ醍醐味をテーマにした講話やグループワーク等内容を大幅に改善して実施し，平成27年度以上の評価を得た。

さらに参加者増を図るための魅力的なイベントの内容等を検討し，平成29年度も実施する。

②学外オープンキャンパスの鹿屋・奄美の2会場に新たに都城を加えた開催について

開催2年目となる鹿屋会場では，平成27年度を5名上回る17名の参加があった。開催3年目となる奄美会場は，29名の参加で，平成27年度を14名下回ったが，高校生は21名（平成27年度比6名減）であり，高校生については奄美会場での開催が浸透しつつある。

また，初めて開催した都城では，8名の参加があった。

いずれの会場でも「大学／鹿児島国際大学での学び」をコンセプトとして在学生のプレゼンテーション（奄美会場は除く），模擬授業，卒業生のメッセージ等を実施した。

平成29年度も引き続き継続し，本学での学びの浸透を図っていく。

③オープンキャンパスに参加する県外・離島在住者の参加者交通費補助の継続的な実施について

平成27年度から実施している「県外・離島交通費補助」は，48名（平成27年度49名）の生徒が利用し，遠方からの来場者の増加につながった。

また，交通費補助を利用した48名中18名の生徒が入学に繋がった。

平成29年度も引き続き継続し，参加者増及び入学に繋げる。

（３）広報戦略の点検・改善

①本学教育力の多面的でタイムリーな広報と「さんいちプロジェクト」を通じたトップランナー育成のアピールについて

広報誌「みなみ風」の夏号・秋号の2号にわたって，「母校高校への手紙」を特集した。本学で充実した大学生活を送っている様子を伝え，短大や専門学校との差別化を図った。

「さんいちプロジェクト」は，陸上部男子学生が九州インカレ5000mで優勝（九州一）する等情報が入った段階で，ホームページや広報誌でタイムリーに情報発信している。

平成29年度も引き続き継続し，タイムリーな情報発信に努める。

②ソーシャルメディアのTwitterやFacebook,インターネットツールの動画サイト(Vine)や写真サイト（Instagram）の更なる活用と多彩な学生生活のタイムリーな情報発信について

インターネット上のツールであるInstagram（インスタグラム）が，バージョンアップに伴って動画と写真を併用できるようになり，Instagramに本学学生の多彩な活動や表情を47件の動画に編集し，ホームページ上に特設サイトを7月上旬にアップした。平成27年7月のホームページアクセス数は29,860件だったが，この効果もあったとみられ，平成28年の同月は40,573件だった。

平成29年度も多彩な学生生活をタイムリーに情報発信する。

③進学相談会等での iPad による「360°パノラマナビ」を活用した魅力ある広報について

iPad内に学科ごとの紹介用プレゼン資料を活用して，進学相談会等において魅力ある広報に努めてきた。「360°パノラマナビ」については，臨場感たっぷりにキャンパスをバーチャル体験できると好評である。

なお,「360°パノラマナビ」のホームページでのページ滞在時間は4分12秒と他のページの平均1分06秒に比べて長く，じっくり見られているようである。

平成29年度も継続し，本学への関心を高めたい。

④日本語版ホームページ内容の充実と外国語版ホームページの英語版と中国版のリニューアル及び韓国語版の作成について

日本語版ホームページについては入試時期を意識し，本学で夢を実現した6名（各学科1人ずつ）の4年生の軌跡を紹介する特設サイトを1月上旬からホームページに掲載した。さらに，この内容に学長メッセージ等を加えた印刷物を作成して一般入試（前期日程）合格者に郵送したところ，入学率が向上した。

外国語版ホームページで韓国語版のリニューアルについては，作業関係により遅延したものの，2月にアップした。

これにより，平成 27 年度から進めていた外国語版（英語・中国語・韓国語）すべてのリニューアルが完了した。

7　施設整備計画

（１）教室環境（2 号館）の整備について

7 月に 2 号館 2 階の 3 教室（222・223・224 教室）にアクティブ・ラーニング（AL）教室としての機能を持たせるために電子黒板（50 型）を各々設置し，10 月上旬には利用説明会を開催した。

なお，未だ学内に AL 対応の教室が少なく，今後も計画的・段階的に教室環境の整備を進めていく必要がある。

（２）ラーニングコモンズ(ComoSaka)の整備

①ラーニングコモンズ(ComoSaka)のミーティングルームの設置について

8 月下旬に,ラーニングコモンズ(ComoSaka)の西側の一部をパーテーション(ガラス)で区切り，10～20 人程度が利用できる広さのミーティングルームを設置し，2 つのグループが気兼ねなくディスカッションなどができるような空間とした。

なお，ミーティングルームに関しては,「若者文化の醸成委員会」の拠点としての役割も持たせており関係備品も設置した。

②ミーティングルームへの可動式の机と椅子及び最新の電子黒板の設置について

新しいミーティングルームに，可動式の机 6 基と椅子 12 脚，65 型の移動できる電子黒板を設置したが，ミーティングルームの設置により，ラーニングコモンズ内にステージ設置に充分な広さを確保できなくなったため,簡易ステージは設置しなかった。

また，平成 28 年度は，ゼミや授業をはじめ，就職キャリアセンター主催のセミナーやガイダンス，ＳＡ研修会，卒論発表会，インターンシップ報告会，情報検索ガイダンスなどにも利用され，更に地域の交流行事や教員の研究会など 291 件(約 3,670 人)の利用があり，年間 50 件(600 人)の年間利用目標を大きく上回った。

（３）4 号館 2 階女子トイレ改修工事について

女子学生に快適にトイレを利用してもらうために，平成 27 年度の 4 号館 1 階女子トイレ等改修工事に引き続き，平成 28 年度も 4 号館 2 階の女子トイレの改修工事を行い，洋式トイレ 5 台を設置した。

（４）5 号館 1 階及び 8 号館 4 階の学生ホール関係改築工事について

学生の居場所づくりのために，既存の学生ホールに加え，5 号館 1 階と 8 号館 4 階に 2 つの学生ホールの改築工事を 8 月から 9 月にかけて行った。

5 号館の学生ホールは 510 教室を改装し，510 教室の代替として，528 教室（視聴覚教室）を改装した。また，8 号館の学生ホールは，4 階第一会議室を改装し，第一会議室の代替として，4 階の 3 つの研究室を会議室として改装した。

なお，5 号館学生ホールへテーブル 15 台及び椅子 46 脚，8 号館学生ホールへテーブル 5 台及び椅子 20 脚を搬入し,8 号館事務室前の自動販売機を 8 号館学生ホール内へ移設した。

また，3 月には 5 号館学生ホール内に自動販売機を設置した。

（５）分煙化促進のための喫煙所設置工事について

分煙化促進のために，平成 27 年度に引き続き，平成 28 年度も 11 月に旧 3 号館前とフィールドハウスとサークル棟の間にそれぞれ 1 か所喫煙所を設置した。これに伴い，4 号館，6 号館及び学生食堂周辺の喫煙所を廃止し，11 か所であった喫煙所を 6 か所に集約した。

（６）課外活動施設の主な整備

①総合グランド防球ネットの設置工事について

総合グランドの安全対策のために，9 月に総合グランド（守衛室側）の防球ネットの設置工事を行った。

②学友会機関棟 1 階音楽系サークル練習室の移転工事について

旧 3 号館の解体に伴う音楽系サークル（ロック部，フォークソング部）練習室の移転のため，6 月から 7 月にかけ，学友会機関棟 1 階に音楽系サークル練習室（2 室）を新設した。

③体育系サークル棟コンセントの増設工事について

11 月に体育系サークル棟コンセント増設工事を行った。

④体育系サークル棟軒先の修繕工事について

8 月から 9 月にかけて，体育系サークル棟，柔道場，卓球場及び体育練習室の老朽化に伴う軒先修繕工事を行った。

（７）大学進入路歩道修繕工事及び外灯設置工事について

車椅子利用学生も通行できるように，8 月から 9 月にかけて大学進入路の歩道の幅を広げる歩道修繕工事を行い，また，11 月に外灯設置工事を行った。

（８）その他

①ユーカリ会館 2 階間の仕切り設置工事について

安全管理対策として，9 月にユーカリ会館 2 階の食堂（クーガ）の間仕切り設置工事を行った。

②4 号館及び 5 号館のエレベータリニューアル修繕工事について

安全管理対策として，9 月に 4 号館及び 5 号館エレベータのリニューアル修繕工事を行った。

８　その他重点的事項

その他重点的事項は（１）～（１５）のとおりであるが，その他に次の３項目について対応した。

①改正労働契約法の対応について

6 月中旬までに，労働契約法改正に伴う非常勤講師の雇用に関して関係部局等及び学園本部との打合せを行い，6 月下旬の大学評議会と 7 月中旬の教授会で検討状況の報告と意見聴取を行った。

7 月下旬の大学評議会で「労働契約改正法に伴う鹿児島国際大学非常勤講師の雇用に関する対応」を提案し，承認された。

②衛生委員会の設置及びストレスチェック制度の実施について

平成 26 年度に公布された労働安全衛生法の一部を改正する法律により，ストレスチ

ェック実施等を義務づける制度が創設された。

本学も 11 月の大学評議会での衛生委員会規程の制定の承認を得て，衛生委員会を設置し，衛生委員会を開催した。2 月には全教職員を対象にストレスチェックを実施した。

③学費等納付金及び入学検定料の改定について

学費等納付金については，11 月の大学評議会及び 12 月の理事会にて，入学試験における入学検定料については，12 月の大学評議会及び 1 月の理事会にて，それぞれ承認を得て，平成 30 年度からの改定が決定した。

（1）中長期ビジョンの策定について

平成 27 年度の第一次中間答申に引き続き，4 項目（「望ましい修学支援，生活支援，進路支援の在り方」「産学官地域連携の推進」「国際化の推進」「若者文化の醸成」）の第二次中間答申を 6 月末に取りまとめた。最終答申に向けては，学部・学科再編の検討を含め，第二次中間答申までに審議を終えられなかった 6 項目（「教員・教員組織」「教育と研究の在り方」「教育研究等環境」「管理運営」「質保証」「時代に即した学部・学科の再編」）について大学部会において審議し，そのうえで基本理念・基本目標・基本的視点・基本的方向・具体的取組を平成 29 年 2 月「鹿児島国際大学中期ビジョン」として取りまとめた（平成 28 年度　大学部会　計 18 回開催)。

（2）大学認証評価（質保証）への取組み

①平成 24 年度の大学基準協会からの提言に対する「改善報告書」の平成 28 年 5 月までの取りまとめ，検証と平成 28 年 7 月までの提出について

各部局・関係委員会において取り組んだ改善報告書内容（努力課題（8 項目）及び改善勧告（1 項目））について，自己点検・評価運営委員会において，改善報告書内容及び根拠資料の確認を行い，審議した結果，承認され，7 月末に大学基準協会へ提出した。

②平成 31 年度大学認証評価に向けた自己点検･評価体制の整備と実質的な自己点検・評価活動の実施について

ａ．規程改正及び６つの実施部会の設置について

持続可能な自己点検・評価体制を構築するため，5 月に規程改正を行い，6 つの実施部会を設置した。

ｂ．実施部会での要検討項目の点検について

本格的な自己点検・評価活動を実施するために，11 月中旬までに各実施部会で認証評価項目に基づく現状と課題の整理，自己点検・評価活動を実際に行う各部局･関係委員会と適切性の検証組織の確認を行い，その内容を 12 月末の自己点検･評価運営委員会で審議し，了承された。

ｃ．点検結果に基づく適切性の検証の実施とＰＤＣＡサイクルの確立について

自己点検･評価運営委員会において了承した内容を基に，各実施部会において，平成 29 年度に実施する自己点検･評価活動に向けた円滑なＰＤＣＡ活動ができるよう規程改正及び整備を行うとともに，点検・評価項目の設定を行っている。

（3）就職・就業力の向上

①就職率96%（全体）達成のための幅広い就職支援について

就職スケジュールの変更や求人状況の好調が続く中，様々な状況の学生に対し，演習担任，保護者等にも連絡を取り，個別に就職活動を支援した。

4年生対象の本学主催合同企業説明会では，4月（参加企業82社）は304名（平成27年度233名），9月（参加企業27社）は57名（平成27年度56名）が参加し，特に，9月は初めて福祉系６法人を招き，平成29年度規模拡大への足掛かりとなった。学生の参加利便を図るための無料バス運行についても，4月は大型バス2台に満車，9月は大型バス1台に参加者の約4割が利用した。

また，本格的な就職活動が始まる3年生保護者を対象とした就職懇談会を10月に開催し，161名（延187名）が参加した。

さらに，資格取得講座（MOS，日商簿記3級，FP3級）では，MOS講座23名（平成27年度30名），日商簿記講座15名（平成27年度14名），FP講座11名（平成27年度18名）が受講した。また，就職対策講座（就職試験験，公務員，教員）は就職試験対策講座55名（平成27年度41名），公務員受験対策講座73名（平成27年度102名），教員採用試験対策学内講座97名（平成27年度105名）が受講した。

※平成28年度就職率97.2%（平成27年度95.2%）

②本学卒業企業経営者の会の新規会員開拓及び企業経営者の会によるキャリア形成支援の強化について

学内において学長による「企業側の立場から見る就職活動講話」を4月に開催した。7月に開催した幹事会・総会（同日開催）では，新規会員となった尾脇垂水市長の講演会を開催し，平成29年1月の新春セミナーでは経済学部教員による講演を開催した。

また，連携強化の一環として，12月 に会員による講演（業界研究講座と共催）を2回開催し，初めての取組みとして12月に会員2名によるＯＢ座談会を開催し，18名の学生が参加した。

なお，平成28年度の会員数は92名である。平成29年度は，会員数95名を目標とし，学生との交流の機会をさらに拡充する。

③国内インターンシップ参加者 100 名を目標とするインターンシップ受入企業及び地域との連携について

国内インターンシップとして「3日間社長のカバン持ち」29名，「県インターンシップ」26名，「独自開拓インターンシップ」41名，「エアライン・インターンシップ」2名，「プレ・インターンシップ」6名，「COC+インターンシップ（鹿児島銀行）」4名，「包括連携協定インターンシップ（西之表市）」5名となり，目標を上回る計113名（平成27年度98名）が参加。このうち，本学独自の新規取組みとしては「独自開拓4社（企業3・福祉施設1）」に8名，「種子島・屋久島」に各1名，「プレ・インターンシップ」に6名，計16名が参加した。

④出身地でのインターンシップ拡大のための奄美に種子島・屋久島を加えた本学独自インターンシップの実施について

本学独自インターンシップとして新規に実施した種子島・屋久島では，それぞれ地元出身者1名，計2名が参加し，市役所・役場でインターンシップを実施した。奄美

では地元出身者ではない学生1名（平成27年度は地元出身者5名）が企業でインターンシップを実施した。

⑤航空会社や地元空港等のエアライン業界でのインターンシップの実施について

7月に学内でスターフライヤーによるエアラインセミナーを実施し，14名が参加した。9月には，北九州空港（㈱スターフライヤー），ＡＮＡ福岡空港でのエアラインスクール@エアポートに2名が参加した。また，2月に学内でエアラインセミナーを実施し，8名が参加した。

地元空港等については，平成27年度に続き9月に鹿児島空港での就業力育成研修を実施し，19名（平成27年度18名）が参加した。

⑥地域の商工業団体と連携した就業力育成研修の実施について

平成28年度から経営学科科目に新設された「プレ・インターンシップ」（参加6名※1年生のみ）を8月に2日間実施した。受入企業として，谷山地区企業の㈱プロゴワス，阪東機工㈱において実施した。平成29年度は，地域の商工業団体との連携を検討する。

⑦外国人留学生を対象にした地元企業での就業力育成研修の実施について

初めての試みとして，7月に城山観光ホテルにおいて外国人留学生を対象に就業力育成研修を実施し，大学院生・学部生・交換留学生合わせて19名が参加した。主な内容としては，ホテル関係者・本学ＯＧ講話，ＯＧとのランチミーティング，施設見学，企業説明等を行い，アンケートでも，ほぼ全員が参考になった，満足と回答があった。

また，鹿児島商工会議所との包括連携協定に伴う連携事業として12月に「地元企業と鹿児島国際大学留学生との座談会」を学内で開催し，18名の学生が参加した。

平成29年度は外国人留学生への支援を拡充し，留学生を対象としたインターンシップに取り組む。

⑧企業への就職希望が多い経済学部を対象にしたＳＰＩ模擬試験の試行的な実施について

初めての試みとして，10月に企業への就職希望が多い経済学部2年生を対象に，ＳＰＩ模擬試験を演習時間帯に実施し，177名（受験率67.3%）が受検した。ＳＰＩ模擬試験の前週の演習時間帯には，キャリアガイダンスを実施し，演習担当教員と協働した就職支援を実施した。

また，平成29年度の取組として3月のオリエンテーションにおいて経済学部新3年生を対象に，ＳＰＩ模擬試験を実施し，116名（受検率20.7%）が受検した。

今後は受検率を高める対策が必要である。

（４）卒業生の成績原簿のデジタル化について

平成17年度以前卒業生の成績原簿は，紙媒体の保存だけで破損の危機が懸念されていたが，平成28年8月より3年計画で業務委託による成績原簿のデータ化に取り組んでいる。1年目(8月～9月)は，短期大学部の卒業生分約18,200件のスキャンによる画像取込みが行われ，計画どおり作業が進み，12月に発行システムの運用を開始した。

平成29年度も引き続き卒業生の成績原簿のデジタル化に取り組む。

（５）時間割編成システムの導入について

時間割編成システムの導入については，計画どおり作業が進み，システムの運用に向けて各種データマスターの設定を終え，2 月からシステムを運用した時間割編成を行った。今後は，平成 29 年度に向けて運用の課題改善に取り組む必要がある。

（６）学生相談体制及び修学支援の充実

①学生相談員（臨床心理士）の配置について

平成 28 年度から，全ての平日に学生相談室を利用できる体制とした。また，全学生に対し，オリエンテーション時に学生相談室のリーフレットを配付し，周知を図った。

現在，学生相談室で対応した学生の情報は，個人情報保護の観点から，学生課との情報共有が十分に図られていない状況であったため，学生相談室・学生部連絡会を開催し，連携について協議した。今後は，情報共有を図るため，定期的に連絡会を開催するなどの確認を行い，連携した学生支援を行っていけるよう，改善していく予定である。

さらに，平成 29 年度からは，修学支援員を配置し，休学者や長期欠席者への支援業務等を行っていく。

②緊急的事情等により修学困難な在学生に対する学費等減免制度の創設について

平成 28 年度からの新制度として，掲示板や学生ポータルシステムを利用して周知を図った。導入後は，相談内容と選考基準の齟齬が生じる混乱もあったが，齟齬がないよう細則を改正し，制度の趣旨に沿った支援ができるよう注意して相談に応じた。

なお，平成 28 年度の採用件数は 15 件（Ⅰ期 6 件，Ⅱ期 5 件，Ⅲ期 3 件，Ⅳ期 1 件）であった。

平成 29 年度も引き続き周知を図りながら，就学支援の充実を図っていく。

（７）各種研修会の実施について

オリエンテーション期間の「車両登録時」に交通事故防止の講話を実施し，平成 28 年度は，同期間に新入生オリエンテーション資料として「生活トラブルを防ぐ本」を全員に配付した。

また，平成 28 年度から，新入生オリエンテーション期間に人権教育の中でハラスメントを含めた「キャンパスライフ研修会」を実施し，590 名の学生が受講した。その成果を踏まえ，研修会の内容の充実と適切性の検証を行い，次年度の研修会について，2 年生以上を対象にしたハラスメントを含む研修会を実施する予定である。

女子学生寮の防災講習会については，9 月 21 日に火災を想定した防災訓練を実施した。訓練内容は，火災時における通報訓練及び寮生の避難訓練を行い，消火器の取扱い及び避難梯子を使用した避難の演習，火災時における避難の注意事項等の講話を行った。

（８）学生ボランティアの支援体制の強化

①学生ボランティアセンターの紹介や登録申込及びシンポジウムの開催について

平成 28 年 4 月から，学生課内に「学生ボランティア支援センター」を設置し，新入生オリエンテーション期間の中で「学生ボランティア支援センター」の紹介と登録申込みの案内を行った。平成 28 年度の登録者数は 181 名であった。

また，ボランティア支援連絡会議を立ち上げ，①登録者数，②依頼件数と活動状況等の報告を行い，情報の共有を図った。

さらに，予定していたシンポジウムの一環として，10 月 8 日開催の福祉社会学部講

演会（テーマ：「災害支援の網の目からこぼれ落ちる障がい者」）と共催して，ボランティア活動に関する啓発活動及び災害時における障がい者への支援に関する啓発に努めた（参加者約 230 名）。

平成 29 年度は，さらに学生ボランティア活動を活性化させ，シンポジウム及び活動発表会等の開催を行っていく予定である。

②ボランティア学生への研修及びノートテイカー等の養成について

平成 28 年度から，新規にノートテイク講習会を前期（9 月 15 日・16 日），後期（3 月 22 日）の 2 回実施した。受講者数はそれぞれ 8 名・6 名の計 14 名であった。

平成 29 年度も引き続き，ノートテイク講習会を開催し，支援者を養成していく。なお，聴覚等に障がいのある学生に対しては，支援の確認を行い，ノートテイク支援の必要があれば，講習会受講生等とのマッチングを行っていく。また，新規研修会として，応急手当（AED 含む）研修会も 10 月に実施する予定である。

（９）学生生活に関する実態調査の実施について

4 年に 1 回実施する平成 28 年度アンケート実施の期間は,11 月 1 日から 11 月 30 日とし，前回（平成 24 年度）実施したアンケートの質問項目を精査し，現状等にあった質問項目に修正した。

また，LiveCampus のアンケート機能を使って，スマートフォンやパソコンでの回答ができるよう変更した。（従来どおり，手書きでの回答も可能とした。）

なお，アンケート回答については，1 月から 2 月に集計・分析を行い，3 月に報告書を発行する予定であったが，回答率が低く，3 月末まで再度学生へアンケート提出を促したため，報告書が予定どおり発行できなかった。平成 29 年度の前期中には，集計・分析を行い報告書を発行する予定である。

(10) 地域総合研究所のプロジェクト共同研究等の推進

地域総合研究所の事業を円滑に運営するために新規程（「鹿児島国際大学附置地域総合研究所規程」及び「鹿児島国際大学附置地域総合研究所長の選任規則」）を制定した。

さらに，今年度新たに「清水基金」に関する寄附研究部門の立上げに向け，「鹿児島国際大学における清水基金の管理運用に関する規程」をはじめとする，関連規程等の整備を行った。また，分担研究者（竹安栄子京都女子大学特任教授）との覚書も締結した。

①共同研究について

平成 28 年度から 2 年間の 総合テーマ「鹿児島の地方創生に関する総合的研究」を創設し，サブテーマＡ（高齢化・人口減少が地域にもたらす諸課題の解決）とサブテーマＢ（魅力ある地域づくりに関する研究）からなるプロジェクトを設けた。

サブテーマＡについては，食関連産業に関する調査（阿久根市・先進県栃木），鹿児島の若年層人口減少に関するデータ収集，西之表市における医療福祉のニーズに関する調査研究を進めている。

サブテーマＢについては，喜入の景観保全に関する調査準備とフィールド調査，子育て支援に関する情報収集と施設との打合せ等の調査研究を行い，谷山・慈眼寺商店街活性化に関する研究にも取り組んだ。

②研究成果報告について

地域総合研究第44巻第1号は12月末，第44巻第2号は3月末に発行し，本学リポジトリにて掲載している。ニューズレターは発行休止とした。

(11) 図書館の機能充実

①備品検査補助やリポジトリ業務，オーディオルーム業務全般を加えた業務の外部委託について

業務委託2年目を迎え，委託スタッフの入れ替えでフルタイム勤務者が4名から7名に増え，業務の研修なども頻繁に行いサービスの向上を図っている。

図書館の蔵書点検(1階和書 約12万冊)，備品検査(研究室貸出図書)や新ゼミなどのガイダンスも，計画・立案から報告までを委託スタッフが主担当として滞りなく実施できた。

②外部委託した8号館オーディオルームのサービスについて

平成28年4月より，オーディオルーム業務を外部委託したことにより，平成28年度は277日(2115時間)開室し，平成27年度の239日(1525.5時間)開室に対して，年間で38日(589.5時間)の増加となった。利用者は約600人増加し，専門スタッフが常時滞在していることで利用相談などのレファレンスも約200件増えており，サービスの向上が図られた。

スタッフが1.5人体制となったことで，カウンター対応だけでなく，8号館3階の図書資料収納室の再整理及び仮データ登録資料の再入力などの資料整理が進み，資料の検索や提供がスムーズに行えるようになった。また，オープンキャンパスや講習会時の学外見学者への対応の強化や，利用者増加に向けて展示や案内を充実させるなど，サービスの質の安定化も図った。

(12) 認定こども園に係る特例制度講座の実施について

鹿児島短期大学及び本学において多くの卒業生を輩出しており，その要望に応えるとともに，養成校としての社会的責任を担うために実施した。期間は，5月～8月までで，募集予定人数(50人)を上回る受講者があった。受講申込み者数は，保育士資格取得が65名(卒業生58名)，幼稚園教諭免許状取得が38名（卒業生1名）計103名であった。

(13) 職員提案制度の継続について

職員提案制度は予算要求と関連することから，平成28年度は募集期間の見直しを行い，募集期間を10月中旬～11月末とし，8件の提案がなされた後，平成29年度予算ヒアリング期間である12月から1月に，提案者に対しヒアリングを行った。

ヒアリング後，提案審査会にて，審議の結果，優秀賞1件，準優秀賞3件を選定し，3月に表彰式を行った。

(14) 超過勤務の縮減の継続について

超過勤務の縮減方策については，9月末までに超過勤務の縮減方策（試案）を作成し，10月下旬に課長補佐会議を開催し，意見聴取を行った。しかし，最終的な方策は完成できず，取組は実施できていない。

今後は，平成29年度前期中（6月1日）の本格実施開始を目指し，早期に方策を完成させる予定である。

(15) 若者文化の醸成について

若者文化の醸成検討小委員会の構成委員（学生・教職員）により，学内情報（本学の魅力）を収集のうえ，取材・編集し，SNS（twitter）を利用した情報発信を７月から開始した。大学祭特集などによってフォロワー数も増え，情報発信に対して意欲ある団体からの情報提供もあり，学生の認知度も少しずつ高まってきている。

また，情報収集の成果物として，これまで twitter で紹介した情報等を関連づけた内容を盛り込んだ大学案内のリーフレット（「いいね♡ＩＵＫ～ＩＵＫよかもんＭＡＰ～」）を作成し，新入生やキャンパス見学会参加者等に配布する予定である。

今後は，新たな取組み（マスコット，グッズ等の制作）を進めていく中で，運営主体を学生に移行する体制を検討していく計画である。

以上　鹿児島国際大学

鹿児島高等学校

１　基本方針

「克己」「謙虚」「礼節」の校訓の具現化を柱として，次の４つを基本方針とする。また，ホスピタリティの向上とともに時代に求められる新しい教育課題にも対応できる体制をつくる。

（１）生徒を伸ばすための教育活動（授業―学力，部活動―上位入賞・達成感，学校行事等―共同感・満足感）の充実を図る。

（２）進路実績の一層の向上のために進路指導システム（補習体制，個別指導体制，二者面談等）の改編充実を図る。

（３）生徒の自己指導力を育成するための積極的な生徒指導を展開する。

（４）生徒定員確保のための方策について全校的に研究・実践していく。

２　教育計画

（１）教務部

①学校評価

学校関係者評価，学校評価アンケートを活用し，教育活動を改善する。

通学マナーについては，生徒指導部で登校・下校指導を実施した。

広報活動については，企画広報部でホームページの更新や広報誌「Ｚｉｇｚａｇ」の発行を行った。

②教育課程

ａ．電子黒板やタブレットを導入することによりＩＣＴ教育およびグローバル教育を推進する。

教員向け利用講習会を開催した。

夏休みのエンパワーメントプログラムでも活用した。

利用頻度が上がり，電子黒板が不足しがちである。

ｂ．教育課程の管理を適切に行い，生徒の学力向上につなげる。

H29年度入学の英数科生徒について，理科の改定を決定した。

デジタル教科書について，必要分を購入し，各教科で活用している。

ｃ．学校行事・会議を見直し教育課程の充実を図る。

学期ごとに来年度の行事・会議等について検討し，改善点を洗い出して変更可能な点については変更した。

体育祭は，初の学年縦割りで紅白２組での実施であったが，応援団の統制等成果が感じられた。

鹿高祭については，生徒会役員自身が段取り等を深く理解していない面も感じられ，来年度へ向け課題が残った。

（２）進路指導部

《進学指導》

①　教科との連携により，学科の目的に応じた学力の担保・向上に努める。また，保護者との

十分な連携により，生徒各人の能力に応じた適切な進路指導を行う。

1･2 年生にスタディサプリ，Ｃｌａｓｓｉ を導入し，生徒の自学自習の手助けとなるようにと考えたが，多くの生徒が活用するには至らなかった。二者面談や三者面談を通じて，担任は適切な指導に取り組んだ。また，進学指導室としては，進学説明会等への参加を積極的に促し多くの生徒が参加したが，生徒や保護者が広範な情報を手に入れようとしない点に苦慮した。今後に向けて，より具体的で説得力のある指導の必要性を感じる。

②鹿児島国際大学とのさらなる連携に努め，進学者の増加に努める。

鹿国大への進学に向けて 3 年担任は尽力し，多くの生徒が受験し，進学することとなった。同一学園入試に加え，一般入試･ＡＯ入試による合格者も多数出て，63 名の生徒が進学する。2 年生の普通科情ビ科の希望者が鹿国大との高大連携の一つとして，鹿国大のキャリアアップセミナーに参加した。2 学年の担任等もできる限りのバックアップをし，生徒の評判はわるくはなかった。

③国公立大学・難関私立大進学者増加に向けて強化を図る。

補習授業の計画は綿密にたてられ，進学に向けての授業は適切に実施された。校外模試は，2 年生は比較的好調で，1 年生はここ数年間で最も上位層が厚い学年である。両学年とも，順調に推移している。3 年生が伸び悩み，授業による効果的な対策を試みたが，センター試験までには挽回しきれなかった。国公立二次試験に向けて懸命に取り組んだ結果，センター試験までの状況を挽回できた。国公立合格者は浪人まで含め 51 名で，昨年には及ばなかったものの，歴代 2 位の好結果であった。推薦・ＡＯ入試への指導に関しては，生徒の取り組みに深浅があり，指導教官による働きかけ方の改善が必要である。センター試験受験者は，普通科一般クラスの受験者が少なく，146 名と目標に届かなかった。現在，難関私大･国公立大の推薦入試については，前年度ほどではなかったが比較的好調であった。

《就職指導》

①3 年間を見据えた指導体制を確立し，キャリア教育を推進する。

早期進路目標の設定等，希望者全員の進路実現を計画的に進める。

早期進路目標の設定等，就職希望者全員の進路実現を計画的に進めることができた。又，各種検査(1年生:クレペリン検査，知能検査　2年生:クレペリン検査，職業適性検査)を実施し，二者面談・就職指導・就職試験に十分対応できた。外部講師(ハローワーク・鹿児島市雇用促進課・東京リーガルマインド)によるガイダンスを実施し職業観の育成に努めた。又，情ビ科と連携を図り，インターンシップの構築に努めた。

②基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着を図る。

教科，学年との連携を充実し，継続的な指導を進める。

教科との連携を充実し，マナー指導や語先後礼・指導添削を行い，夏季休業中に行う指導への効果を上げることができた。又，就職試験対策用の同一問題集を購入し，継続的な指導・確認を行うことができた。又，資格取得や個別指導の充実に努め基礎学力の定着を図った。

就職模擬試験(ＳＰＩ検査を含む)を2回実施した。

③生徒一人ひとりの希望を大切にした就職指導を充実させる。

求人企業の拡大に努め，就職率8年連続100%をめざす。

求人企業の拡大に努め，就職内定率8年連続100%を達成することができた。

学科朝礼，学年朝礼での指導講話の充実や，外部講師によるガイダンスを実施し，職業観の育成に努めた。

（３）生徒指導部

《生徒指導》

①携帯電話について講演会や啓発活動をとおしてマナーおよびモラルの向上をめざす。

校内は良好。校外マナーついて指導が課題。

②校則遵守を励行し規範意識の向上をめざす。

問題行動は微増。全体的に落ち着いている。

③生徒指導上必要な情報を共有し，教師間の共通理解・共通実践を進める。

情報交換や対応などしっかりできていた。

《要支援生指導》

①支援の必要な生徒へ早期に働きかけられるように努める。

ａ．担任の日常観察や二者面談での情報を収集し，必要なサポートを行う。

ｂ．保健室の健康観察記録の利用

②それぞれの生徒に応じた適切な支援を検討し，教職員間で共有化する。

ａ．担任，保健室，グリーンルーム，相談室，スクールカウンセラー等で本人や保護者にアプローチする多角的な状況把握

ｂ．個別のケース会議や支援委員会での具体的な指導や支援の検討

ｃ．学年会や職員会議等での検討や周知

入学者情報の収集を行い，クラス編制に活用した。また，新年度当初，全教職員で情報を共有し，指導に活かした。

中学校で不登校傾向であった生徒６割は順調に登校。担任,学年主任も意識が高く適切で迅速な対応を行った。健康観察簿,生徒現況報告をもとに，教務,保健室,スクールカウンセラー，グリーンルームの連携もおおむね順調であった。

三学期になり，体調不良がきっかけとなり，中学時不登校傾向であった生徒が連続して休むことが目についた。

卒業・進級に向け支援を必要とする生徒に対して個別に対応した。

（４）保健安全部

①保健指導強化週間を継続し，指導内容の充実を図る。

各担任や三弧会と連携して，主体的な健康習慣の実践をめざす。

市学校保健研究協議会において，本校の学校保健安全活動や健康相談活動について発表し，よい評価を得ることができた。今後も，三弧会保健部や学校医等と連携を図り，健康課題に応じた保健指導を継続していきたい。

②危機管理意識を高め，命を大切にする行動ができる生徒の育成をめざす。

安全指導や防火防災に対して，全職員の共通理解・共通実践を図る。

火災や津波の避難訓練や教職員の防災訓練を実施し，危機管理意識を高めることができた。今後更に共通認識を高めさせたい。

（５）学科

①普通科　才能の伸長，進路の実現

ａ．生活習慣の確立

１学年　挨拶の励行と規則の遵守

特に部活動生を中心によくなされていた。

２学年　無遅刻無欠席と時間厳守

一部の特定の生徒の遅刻，欠席が見られたが，概ね順調。

３学年　礼節ある生活

全体的には概ねよくできていた。

ｂ．学習習慣の確立

１学年　授業集中と得意科目づくり

試験の結果を鑑みると，やや物足りなさを感じた。

２学年　自宅学習の充実と基礎学力の向上

自宅学習が習慣化されていない。

３学年　進路に応じた学習

小論文や面接など，各人で目標に向かってよく取り組んでいた。

ｃ．進路の実現

１学年　自分の才能発見と目標の設定

ＬＨＲ時のキャリア教育を通して，少しずつ考えるようになってきた。

２学年　進路目標の確立と実績の積み上げ

進路への意識付けがやや遅れ気味。

３学年　社会貢献と進路実現

「未来探求」の授業等を通して，全体的は概ね達成できた。

②英数科　自己実現

ａ．１学年　自律―基礎力充実

初期指導の充実と基本的生活習慣の確立

登校時間および学習の記録の提出状況については概ね良好といえるが，遅刻をしてくる生徒や未提出の生徒はほぼ固定化されている。

今後とも各学級での徹底した指導が必要である。

家庭学習習慣の確立と基礎学力の向上

基礎学力の定着については概ね良好と思われる。

能力と適性に合った進路選択

文理選択については，最終結果においてもほぼ同数である。

より具体的な進路について生徒達に情報を提供し，ＬＨＲや修学旅行における大学訪問を通じて確立させていきたい。

人数の多い学年なので，次年度は学校の中心として積極的に取り組む学年にしていきたい。

ｂ．２学年　向上―思考力の養成

家庭学習習慣の定着と基礎学力の充実

朝の 7:30 登校の徹底等を図りつつ，生活習慣の確立を前提とし，朝補習をきちんと受講させることで基礎学力の充実を図ってきた。

また，各担任は，生活記録ノートをもとに生徒の家庭学習状況を把握し，面談等を通して生徒の状況に応じた的確なアドバイスを行った。その結果，家庭学習状況にはまだ個人差があるが，受験を意識して改善してきている生徒も徐々に多くなりつつあり，今後さらに良くなると考えている。

主体的な思考力・判断力・表現力の養成

日々のロングホームルームや第 2 学年の大きな行事である修学旅行を通して，思考力・判断力・表現力の育成に取り組んできた。とくに修学旅行では，自分の興味・関心に合わせて，大学訪問，企業訪問を行ったが，事前学習を充実させ，また事後学習でまとめを行い，保護者を前に発表会を行った。それぞれ充実した内容のまとめを行うことができた。

能力と適性に合った進路目標の決定

進研模試の結果をみると，概ね本学年は好調であった。今後は上位層にはより学力を伸長させ，下位層も手厚く指導したい。さらに，本人の進路希望分野に沿った難関大学にチャレンジできるように面談等を通して激励していきたい。

ｃ．3 学年　自立―応用力完成

合格力の育成

年度後半は，完全に受験に向けての体制になった。進路目標に関しては，担任，副担任協力し合って二者面談三者面談を時間も回数をかけて行い，進路目標はしっかり定まった。成績上位の生徒達はそれに向けて一所懸命に取り組むようになっていった。しかし，下位の生徒は無理せずに合格できそうな私立や専門学校へと意識が向き，入試に関係ない科目への取り組みがあまり良くなかった。センター試験の結果は，理系は厳しかったが，後期まであきらめず指導を続けた結果，判定Ｄ・Ｅからの逆転合格者も出た。

国公立大合格者は 20～25 名との年度の目標だったが，鹿児島大学だけでも 29 名，全体では 39 名の国公立大合格を成し遂げた。３年学年会の面目躍如，教科に携わった先生方のおかげである。確かに九州大学など現役では難関国立大学の合格はなかったものの，浪人が旧帝国大学と云われる北海道大・東北大に合格してくれた。他校と比較しても遜色ないものと思われる。

グローバルな人材の育成

米国アーカンソー州パーミントン高校への長期留学や青年海外ふれあい事業による香港への短期研修など自ら積極的に海外へと飛躍する生徒が出てきた。教員側も積極的にこれを支持し，成功裡に終わった。また，実用英語技能検定など延べ 270 名程度受験し準 2 級は 75%合格したが，2 級は 10%程度，準 1 級は 2 名だったので次年度はさらに強化したい。

進路目標に応じたサポート体制

進学と協力し，小論文対策・過去問対策・面接指導・類似問題演習など手

厚い指導を行い，個別指導や添削，進路面談に余念なく取り組んだ。要は生徒に最後まであきらめない心を培うこと。日々の授業の大切さを実感させること。そして，いかに記述力・表現力・思考力を育むか。それぞれの教科における次年度への課題といえよう。

③情報ビジネス科

ａ．基礎学力の向上

1学年　8時登校の徹底と基礎学力の定着

保護者の協力を得ながら実施し定着しつつある。朝の時間を有効に使い，検定試験問題や就職試験対策問題集を解き，基礎学力向上に活用できた。

2学年　幅広い教養の修得

読書奨励への取り組みがやや不十分であり，今後の課題である。

3学年　修得した学力・教養の応用

早い段階で一般常識問題集などに取り組み，進路に活かすことができた。

ｂ．専門知識の習得

1学年　全商主催検定3級の取得

多くの検定を順調に取得できている。

2学年　全商主催検定1級の取得

多くの検定試験で1級合格をする生徒が出てきた。

3学年　多種目1級取得と上級資格取得への挑戦

日商簿記2級が2名，全商3種目以上1級が2名。今後の受験に対する意欲喚起に取り組みつつある。

ｃ．進路指導の体系化

1学年　自分の適性確認

職業適性検査やクレペリン検査など，自己を知る取り組みを実施できた。

2学年　職業観の育成

インターンシップを実施し，職業観の育成に努めた。

3学年　進路計画の具体化と実現

8年連続就職内定100％の達成，進学内容も有名私立大合格など充実しつつある。

3　生徒募集計画

（1）鹿児島高校の魅力を中学生・保護者にしっかり伝える方法を検討し実行する。

①効果的な広報物（学校案内，HPなど）の作成

学校案内，HPともに評価の高い良いものを制作することが出来た。

学校案内完成からHP更新までに時間がかかってしまったので，来年度以降はその時間を短縮していきたい。

②模擬授業や面接指導など，より積極的な広報活動を実施

今年度初めて面接指導講師派遣の案内を鹿児島市内の中学校に配布し，その結果，7校から依頼があり実施した。面接指導をした中学校からの評価は非常に高く，本

校の生徒の質の高さ，教員の熱意などを伝えることが出来た。さらにそれらの中学校からの受験生の増加に繋がった。

（２）中学校，学習塾との連携・緊密化を図る。

①中学校訪問，学習塾訪問実施

中学校訪問は予定通り実施し，信頼関係を築けた。

学習塾訪問は担当者決めが遅れ，訪問を１回実施出来なかった。

②情報伝達，情報蒐集のスキルアップ

ストーリー性を持たせた魅せる資料（学校案内など）作りは出来た。

上手く信頼関係を築けた中学校，学習塾からは有益な情報を得ることが出来た。

４　施設整備計画

（１）施設設備の維持管理に努める。

体育館の年次計画的な改修を推進する。

8月放送設備の入れ替えを行い，音質の良い新たな設備で文化祭を行うことができた。

3月アリーナ内男女トイレの手洗い水道を改修。

体育館1階食堂側玄関を改修。

台風など大雨時の体育館の雨漏り対策として，壁・窓の改修を来年度に計画した。

５　その他の計画

（１）業務の改善

予算管理，その他業務の見直しにより厳正化・効率化を図る。

予算書の様式を変更し，11月から予算書をＴＯＭＡＳに取込み予算管理を開始した。これにより予算精度の向上と業務の効率化が図られた。

（２）退学者の減少

グリーンルームの活用を図り，退学者減に努める。

今年度の転退学率は，進路変更による転退学者がやや増えたことにより，昨年度よりやや増加したが，過去5年の平均は下回ることができた。

以上　鹿児島高等学校

鹿児島修学館中学校・高等学校

１　基本方針

建学の精神に則り，全人教育を基調として，将来，社会（国家社会・国際社会）の発展と人類の進歩に寄与し得る有為な人材を養成する。

（１）生徒の個性・能力を伸長し，自主性・独立性・創造性を培う。

（２）自由と規律・寛容と協調の心を育てる。

（３）進路実現のための高い学力の養成に努める。

（４）健全で豊かな精神を養い，人生の真理の追究と幸福を追求する人間を育成する。

２　教育計画

（１）円滑な学校生活・運営の提供

①年間指導計画の作成・提示と実践

各教科・科目の年間指導計画を年度当初に生徒・保護者へ提示した。

②社会人基礎力の養成

社会人基礎力養成のためのプログラムが，6年間および3年間の各種学校行事で生かせるように仕上がり実施できた。

③職員の資質向上のための研修（職員研修年２回実施）

指導力・授業力向上のための研修（主にアクティブ・ラーニング（ＡＬ））を実施した。

その他，各教科による個々の校外研修がなされた。

④授業の公開（授業公開週間，毎学期の学年保護者会で公開）

保護者会の際に授業公開および地域の方々に対し，10月の第4週に授業公開週間を実施した。

⑤検討課題研究

a. 学校行事・教育課程の見直しと改善

年度当初のプログラムや体験学習および6か年を見据えた学校行事を見直し，今年度から実施した。

b. 鹿児島高校・鹿児島国際大学・鹿児島幼稚園との連携

姉妹校と，資質向上・ホスピタリティ向上連絡委員会における連携

鹿児島国際大学と国際交流授業等の実施…ＥＳＳ部の学習および英語俳句やＡＬ研修への協力が得られた。

鹿児島高校と部活動での生徒間交流および研究授業・学校行事を通しての職員間の研修・協力…吹奏楽部・放送部の合同練習や陸上部への相互協力ができた。

c. 地域との連携・情報発信

地域へ，毎月「町内会便り」で修学館の情報発信および本校の各種行事を町内13か所の掲示板で紹介。文化的行事や交通安全運動の際の協力をした。

（２）社会のニーズに対応できる確かな学力の育成

①指導法の研究と実践

a. ＩＣＴ活用の研究と実践

b. アクティブ・ラーニング（ＡＬ），協働学習等の研究と実践

c. 教員研修への参加

d. 授業アンケートの実施

特に高校生の授業においては，教室に設置されたプロジェクター，スクリーンを積極的に活用した授業を実践し，教育効果をより高めるよう取り組んだ。

アクティブ・ラーニング（ＡＬ）については，鹿児島国際大学の内山仁講師を招き研修会を開いた。日常の授業中の生徒の実態を客観視することで，より生徒が生き生きと活動できる授業の必要性を認識できた。来年度に向けて，ＡＬを取り入れた授業はもちろんのこと，わかる授業，学力を伸ばす授業を目指して，研究，実践に取り組んでいく。また，3月に今後の新たな取り組みの一つである「課題研究」について，本校卒業生の岡本尚也氏を招いて研修会を開催した。

進路企画部として，国語，社会，英語の3名の教員を夏期研修プロクラムに派遣し，研鑽を積んでもらった。

教員の授業力向上を狙いとした生徒への授業アンケートの1回目を7月に，2回目を1月に実施した。手厳しいコメントもあったが，約9割の生徒が現状の授業に満足している結果が出ている。アンケート結果については各教員にフィードバックし，授業改善に取り組んでもらった。

②学力の向上

a. 「指導マニュアル」に則った教員間の共通理解による学習指導

b. 朝補習，長期休業中の補習等の充実

中学においては，各学年とも概ね目標を達成できた。高校1年生については，上位層が厚い結果となったが，それに続く層との若干の差が生まれた。次年度に向け，これら上位層の生徒が，他の生徒を牽引していく体制を構築していきたい。高校2年生においては，教科のバランスが取れていない生徒が目立つので，高校3年生の1学期終了までには，基礎固めを終えたい。高校3年生については，国公立大，難関私大に進学したのをはじめ，大半の生徒が第1志望の大学へ進学することができた。

月毎に各学年の重点項目を定めた「進路指導マニュアル」を作成し2年目になる。1年目は進路企画部が中心となり作成したが，今年はできるだけ学年からの意見を吸い上げ，より学年の現状に即したものを作成し，指導できるように取り組んだ。

中学生の朝読書，高校生の朝補習，放課後補習ともに定着していた。特に高校3年生においては，3年目となる19時までの個別学習が定着し，19時以降も20時30分まで自主的に教室に残り，学習を続ける生徒が増加した。

③進路意識の確立

「ＯＢトーク」「進路講演会」などによる上級学校または職業への興味・関心の喚起

今年度も昨年度に引き続き，中学1，2年生を対象に「リアルしごとびと」を開催した。7人の社会人講師を招き，生徒たちはそれぞれに興味ある職業の方々と対話することが出来た。実施後の生徒の感想文には，今まで知らなかった職業に触れ自分の世界

が広がったという内容のものが多く見受けられた。来年度も是非実施したい取り組みの一つである。

中学3年以上の学年については，例年のように大学生による「ＯＢトーク」を実施した。今春本校を卒業した3人のＯＢが，進路の選択，受験勉強の方法，また大学１年目の生活について熱く語ってくれた。後輩たちの学習意欲を喚起するよい刺激になったようだ。

6月に実施する予定だった社会人によるＯＢトークは，講師の都合で11月に実施した。例年，医師や会社員など，職業人の先輩を招いて講話をしていただいているが，今年は，子育て中の主婦の目から見た社会の話をしていただいた。女子生徒には特に参考になったようだ。

④進路情報の提供

保護者会・進路ガイダンスの開催，進路便りの発行

保護者会，進路便り，毎週発行する学年通信等を用いて，適宜情報を発信している。12月の保護者会の中で，高校1年生の生徒・保護者に対しては，文理選択に向けての職業と学部・学科の関連について外部講師を招いての講話を実施，高校2年生については，外部講師との日程調整がつかず，進路企画部主任が，生徒・保護者に対して「3年生0学期」を意識した過ごし方や推薦入試等についての講話を実施した。また本校卒業生の岡本尚也氏に各学年の生徒へ向けての講話を実施した。

進路通信（中学生向け「克己」，高校生向け「瓦版」）をそれぞれ6号まで発行した。

（３）一事を徹底して行う生徒指導

生徒指導部では，一事を徹底するために毎週水曜日に定例会を開き，各学年の生徒の状況について情報を共有し，意見を交換している。これにより，生徒の問題行動や指導上の問題点を早めに把握し，対応することができた。これまで担任レベルで判断・指導していた問題行動についても情報共有が可能になり，適切な対応を検討することが可能になった。また，今年度は，年度当初 4 月にスペシャルウィークとして，整列・あいさつ指導，校則・遅刻指導のルール確認，携帯安全教室，防災避難訓練，交通安全教室などを集中して行った。

①基本的生活習慣の確立

a. 朝の校門指導の実施

b. 公共の場でのマナー指導

c. 遅刻生徒の調査・指導

平成28年度はあいさつの励行に努め，校門指導においてもあいさつの声掛けを積極的に行い，必要に応じて「あいさつの励行」を生活目標に設定するようにした。

公共の交通機関の利用の仕方やマナーについては，重点的に指導するとともに，定期的に下校時のバス乗車指導，時期をとらえてＪＲの乗車指導やスクールバス利用者の指導を行った。4月11日に交通安全教室を行った。遅刻生徒の指導については，遅刻の段階的指導を徹底した。7時45分からの高校の朝補習，8時5分からの中学の朝読書の遅刻者に対し，3回目の担任指導，6回目の学年主任指導などを徹底した。

②生徒会の活性化

a.「あいさつ運動」「朝の清掃活動」への主体的な取り組み

b.学校行事運営への積極的な取り組み

c.ボランティア活動への参加・協力

放課後の見回り活動を追加し，生徒会役員だけでなくクラスの委員にも活動範囲を広げた。

4月の体育祭は，担当職員と中高の生徒会が打ち合わせを入念に行い，準備から当日の運営まで生徒会を中心に積極的な運営ができた。

9月の文化祭は，中高生徒会を中心に企画運営した。中学生の合唱コンクール，文化部の発表など練習の成果が出ていた。

ボランティア活動については，ボランティア推進校として各種行事やイベントに参加した。中学2年のチャレンジカップでは，ボランティア活動に取り組むグループもあった。

③生徒自身の健康への意識高揚

a.健康診断等の実施についての事前及び事後措置

b.保健だより「えがお」の発行

c.ＡＥＤを用いた心肺蘇生法講習会の実施と保健講話の実施

d.校舎内外の安全点検の実施

平成28年度の健康診断は，不登校傾向の生徒を除いて，全員が受診した。検診は無事に終了したが，要精密者の全員受診が叶わなかった。

学校保健委員会を予定通り実施できた。本年度は，歯科保健についての議題でアンケートを実施し考察を深めた。

ＡＥＤの講習会は，昨年中止になったため，今年度は中1，2，高1，2の4学年に対して夏期講習中に実施した。それぞれ，暑い中，体育館での活動であったが積極的に取り組んでいた。

校舎内外の安全点検については，毎月月初めに実施しており，不具合がある場所は迅速に改善し対処した。

④いじめ対策と生徒相談の充実

a.教育相談の充実（スクールカウンセラーとの連携の充実）

b.「絆週間」を年2回実施（相談内容の報告）

c.不登校傾向の実態調査

d.自習室登校生徒への対応の充実

e.いじめ防止基本方針に則った実践

（Ｑ－Ｕの年2回実施・いじめ調査の年3回実施・携帯等安全教室の実施）

教育相談の充実については，ＳＣ（スクールカウンセラー）が学級担任と連携を取りながら相談活動を行った。

絆週間については，年2回実施した。今後に向け，期間や事後対応等，改善の余地は多くある。

不登校傾向の実態調査については，年2回実施し，結果を報告した。担任が定期的に各家庭と連絡を取っていた。ＳＣと面談を行えた家庭もあれば，保護者側の事情

で行えなかったこともあった。

自習室登校生徒への対応については，生徒に対し「自習状況の記録」を書かせ，ＳＣとの面接を適宜行った。

いじめ防止については，いじめ調査を9月と2学期末，3学期末の3回実施した。4月に高1と中1を対象にＳＣが仲間づくりのワークを実施し，人間関係の円滑化を図った。Ｑ－Ｕ（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を2回実施し，改善に努めた。検査内容のグレードアップをすることになった。携帯等安全教室は4月のスペシャルウィーク中に実施した。

⑤ホスピタリティの向上

a. あいさつの励行

b. 学校周辺および通学路の清掃

あいさつについては，全体朝礼・始業式等の講話，学校説明会やオープンスクールの開催など，生徒に対して外来者へのあいさつの徹底を呼び掛けたこともあり，よくできていた。

学校周辺の清掃活動については，部活動生が中心になり休日の練習日を利用して実施した。学年ではできていなかった。

３　生徒募集計画

（１）新たな視点で，より効果的な広報の実施

①より効果的な塾・学校訪問の実施

a. 6月，9月，11月　塾・学校訪問

6 月にはオープンスクールの連絡のための訪問，9 月には学校説明会の案内のための塾・学校訪問を行った。

b. 1～3月　塾・学校訪問

c. 公立中での学校説明会への参加

1 学期に 8 校，2 学期は 4 校の説明会に参加した。

②より効果的なイベントの運営

a. オープンスクール

7 月 17 日（日）に開催。昨年度まで共催となっていたＰＴＡバザーと切り離し，オープンスクールだけで行った。最終的には 61 組，161 名の参加。

b. 塾対象説明会

10 月 7 日（金）に開催。参加者数は 45 名であった。

c. 学校説明会

今年度は，10 月 16 日（日），11 月 19 日（土），12 月 11 日（日）に開催した。参加者総数は 364 名でこの 8 年間の中では最も多かった。

d. 私立中高フェア

今年の私立中高フェアは，8 月 11 日（木，山の日）に鹿児島女子短期大学の体育館で開催された。本校ブースへの来場者数が 230 名と目標人数に近い参加を得た（昨年は 253 名の参加だった。

③より効果的な広報活動

a. ホームページの充実と更新

毎週土曜日にトップページの写真の変更や，学年通信の掲載などの情報を発信した。

b. 新聞の投稿欄，各種コンクールへの積極的参加

積極的に生徒の参加を呼び掛け，書道展や美術展などで優秀な賞を多数受賞した。

また，作文コンクールや中学生英語スキット・スピーチコンテストなどでも優秀な賞を受賞した。

４　施設整備計画

（１）魅力ある学校づくり

①生徒や保護者の満足度向上に繋がる施設・設備の見直し・充実

今年度は以下の設備について，整備充実を図ることができた。

・本館エレベータの耐震等安全管理システムへのリニューアル
・視聴覚室の生徒用椅子の入替
・空調設備の改善（ＬＬ教室・礼法室・書庫）
・テニスコートの改修

５　その他の計画

（１）ホスピタリティの向上

①窓口・電話応対の向上

来訪者や生徒・保護者からの連絡や要望・苦情等への丁寧で適切な対応ができた。

（２）図書室の魅力づくり

①データ未入力図書資料の遡及入力を進め，資料管理徹底

一般書コーナーの利用頻度の高い資料と，伝記コーナーの未入力資料の遡及入力を完了する。

伝記コーナーの遡及入力は作業が完了。一般書コーナーの資料の遡及入力は，５割程度進められたが，次年度計画的に作業を行いたい。

（３）ＰＴＡ・同窓会との連携

①ＰＴＡと連携した共同事業の実施

・6月10日（金）　高校生のための文化講演会を実施
講師：鴻巣友希子氏　演題：『翻訳入門～翻訳と英文和訳はどこがちがう？』
・11月7日（月）　教育講演会を実施
講師：三遊亭究斗氏　演題：【ミュージカル落語公演】『一口弁当』
・10月18日（火）研修視察旅行を実施。

②同窓会活動への積極支援

・8月13日（土）開催の同窓会総会，懇親会への同窓生教員の協力，現職教職員の卒業生への参加呼び掛けなど積極的に支援できた。

以上　鹿児島修学館中学校・高等学校

鹿児島幼稚園

１．基本方針

創立８７年目・再興４７年目を迎えます。

広々と恵まれた環境を生かして，元気で明るくのびのびと仲よく遊び，心豊かでたくましい子どもを育てます。

・キャッチフレーズ「やればできる。最後まであきらめない。」

（努力点）

① 集団活動の中で，一人一人のよさが発揮できる教育に徹する。

② 子どもの主体的な活動を促し，自ら進んで行動する力を高める。

③ あいさつなど基本的な生活習慣を身につけ，豊かな心情を育てる。

④ 家庭と地域との連携を深め，子どもの自立に向けた環境を整える。

⑤ 全職員によるホスピタリティの具体化を図る。

（あいさつプラスワンの言葉かけ）

（成果と課題）

○ 「教育目標に沿った楽しい活動や遊びが実施されているか」（保護者アンケート）では，約９５％の肯定的な評価があり，高い信頼感を得ていると考える。

○ 「やればできる。あきらめない。」のキャッチフレーズも，子どもや保護者に浸透しており，継続的な実践が効果を上げていると感じる。

２．教育計画

（１）一人一人のよさが発揮できる教育の充実

① 子どもが安心して，楽しく登園したいという幼稚園の環境づくり

② 設定保育の終末や帰りの時間等における積極的な賞賛の場の設定

③ 特別に支援を要する子どもへの配慮の工夫

④ 教育相談の充実（連絡ノート，定期教育相談，大学の先生などによる相談）

（成果と課題）

○ 一人一人の園児にていねいに対応し，幼稚園渋り等の子どもは見られなかった。

○ 「ほめて伸ばす」指導が各学級で定着し，自信をつける子どもが増えた。

○ 特別に支援を要する子どもの指導については，大学教授による教育相談や特別支援学校の先生による研修等により，職員の指導力を高めることができた。

○ 担任による教育相談は，例年より多数の保護者と実施することができた。

○ 「家庭との連携をていねいに行っているか」（保護者評価）の設問では，７５％の肯定的評価をいただいたが，まだ高い目標をもって努力する必要を感じる。

（２）子どもの主体的な活動を促し，自ら進んで行動する力を高める保育の充実

① 自由遊びの環境の工夫(自由遊びから本時の設定保育の導入へのつなぎ方の改善)
② 意欲(導入),挑戦(展開),賞賛(終末)の３段階における問題解決的な保育の在り方の研究・実践
③ 園内研修における研究保育・事例発表の充実と専門的指導力の向上

(成果と課題)

○ 自由遊びの環境については，特にお店やさんごっこなどで創意工夫がみられた。今後も学年会で話し合い，充実していきたい。
○ 研究保育等を通して，導入，展開，終末の活動の仕方について共通理解を深めることができた。
○ 園内研修は，県総合教育センター研究主事や体育遊び研究会の指導者等を招聘し，幼稚園教育要領の改訂や運動遊びのポイント等について意義深い研修を実施できた。

（３）あいさつなど基本的な生活習慣を身につけ，豊かな心情を育てる保育の充実

① あいさつ・はいの返事・スリッパ並べの３点の態度の育成
② 自分でできることは自分でさせる保育の充実
③ 「なかよしクラス」(異年齢活動)の教材研究・実践記録のファイル化
④ 絵本に親しむ活動の充実
⑤ 花や野菜の栽培や動物の世話など自然とふれあい促進

(成果と課題)

○ あいさつ・はいの返事・スリッパ並べ等について，職員の指導意識が高まった。
○ 時計を意識しながら，自分のことをきちんとできる子どもが増えた。
○ 「なかよしクラス」の「お店やさんごっこ」については，実践資料や写真等をファイルに整理することができた。
○ 絵本の読み聞かせについては，あらゆる場で実践できている。
○ 花や野菜等の栽培については，計画通り実施できた。外部に委託しているいも栽培は，大きく育ちきれなかったところが今後の課題である。

（４）保健指導，安全指導・管理の徹底

① 日々の安全指導の徹底
・安全の日の指導の工夫と安全点検の推進
・日々の安全声かけの徹底によるけがの防止
② 園バスの安全運行
③ 健康教育の徹底(手洗い，うがい，歯磨き，部屋の換気の確認)
④ 給食指導の充実による「食育」の推進
・アレルギー対策の徹底

(成果と課題)

○ 「安全の日」は，年間計画通り実践できた。大きなけがはなかったが，小さなけがは起こっているため，常に危機意識は高めておく必要がある。
また，安全点検も定期的に行ない，迅速な修理・修繕等を行うことができた。

○ 園バス運行については、事故やトラブルはなかった。運転手が業務を遂行できない場合に，バス会社に依頼することができる見通しができた。
○ 手洗い，うがい等を励行し，インフルエンザの集団感染等はなかった。
○ 食物アレルギー等では，きめ細かな対応により，事故やトラブル等はなかった。

（５）家庭教育への支援並びに地域の子育て支援センターとしての役割強化
①未就園親子対象の「ちびっこクラブ（２歳）」の充実
②未就園親子対象の「ベビークラブ（０～１歳）」の充実
③在園児親子対象の「親子で遊ぼう」の内容の充実
④「ハッピー＆子育て講座」の充実
⑤預かり保育の円滑な推進
⑥つぼみ組の預かり・バス乗車の検討
⑦幼稚園だよりや園長だより，学級だより，ホームページ等による保護者への広報充実

（成果と課題）
○ 「ちびっこクラブ」は，計画通り実施し、平均８４．３人の参加を得ている。
○ 「ベビークラブ」については，平均２５．７組の親子の参加があり，好評であった
○ 「親子で遊ぼう」は，年間３回，計画通り実施できた。
○ 「ハッピー＆子育て講座」は魅力ある講師を招聘でき，毎回４０人程度の参加があった。台風のため１回中止になった講座以外，残りの４回は計画通り実施できた。
○ 「預かり保育」は特に大きな問題はなく無事終了した。
○ つぼみ組の預かりやバス乗車について，保護者への説明を無事終了した。
○ 諸広報については計画通り実施できた。ホームページによる広報については，次年度も引き続き努力していきたい。

（６）鹿児島国際大学の教育実習園としての特徴を生かした保育の改善
①２年生の参画実習並びに４年生の教育実習の指導の充実
②学生のボランティア体験の促進
③大学と連携した研究の推進（特に英語遊びや音楽遊び等）

（成果と課題）
○ ２年生の観察実習，４年生の教育実習ともに無事終了した。
○ 園の３回の行事に，それぞれ４０名程度の多数の学生ボランティアがあり，大変ありがたいことであった。
○ マット遊びや音楽遊びなど，大学から指導をいただき教員の意識も高まった。また，自己肯定感の成果と課題を明らかにする保護者へのアンケート作成についても大学と連携を図りながら進めることができた。

（７）幼・小・中学校や地域との連携の推進
①６ブロックの幼稚園との連携，共同研修の推進

②幼・小連携の推進

・平成２８年度は鹿児島幼稚園が研究発表並びに保育の予定

③中学校の職場体験学習への協力

④地域の高齢者との連携・園児とのふれあい

（成果と課題）

○ ６ブロックの幼稚園・小学校との連携では，本園が研究保育と事例発表を行うとともに，小学校との貴重な意見交換ができ，有意義な研修会になった。

○ 本年度も慈眼寺町内会のご協力により，町内会と園児との心温かい交流会を行うことができた。

３．園児募集の計画

（１）ちびっこクラブの充実と参加人数の確保

・年間平均参加人数目標 80 人

・「来てよかった，楽しかった」と思うような内容の工夫・改善

・鹿児島幼稚園の特色について，より積極的な広報

（２）ベビークラブの充実と広報

・０歳の部と１歳の部に分け，発達段階に応じた親子遊びの工夫

・ベビークラブ実施の広報の推進（ホームページ等）

（３）つぼみ組のバス送迎並びに園児預かりについて検討

・１０月入園説明会で広報の予定

（４）幼稚園見学者への宣伝資料等の作成・工夫

（５）入園相談の積極的な実施（ちびっこクラブ，入園説明会参加者等）

（成果と課題）

○ 上記の（１）から（５）の施策等により，募集園児数に対する園児確保の状況は次のとおりである。

・４年保育（募集１５名） … １５名

・３年保育（募集６７名） … ６７名

・２年保育（募集　５名） … ５名

・１年保育（募集　１名） … １名

以上，１００％の園児確保の状況であった。なお，平成２９年度の４月２４日現在の園児数は３０２名である。

４．施設整備計画

（１）保育室備品（椅子）・空調機器の老朽化に伴う取替

（２）リズム室便器取替（一部洋式化）

（３）正門からの車道路面舗装の整備化（駐車場も含む）

（４）花や野菜等の計画的な栽培

（５）施設の安全点検の徹底及び補修整備

（６）グランドの維持管理

（７）大型遊具等の検討

（成果と課題）

○当初の計画どおり実施し，施設設備を整えることができた。

○これまでの課題であったグランドフェンスを新しく作り直すことができた。

○大型固定遊具については，きめ細かく安全点検を続けながら，本部と連携を図り，今後の対策を検討する必要がある。

５．その他の計画

（１）ホスピタリティ精神の具体化・浸透の徹底

・気持ちの良いあいさつやていねいな電話対応，保護者等との積極的な会話

・ホスピタリティ研修の実施，個人目標の設定と事例ミニ発表による意識の継続

（２）効果的・効率的な業務の推進

・行事の精選，全体で取り組む仕事の時間短縮化，仕事の段取りの明確化

・担任，副担任，事務室職員等，全員の協力態勢の一層の構築

・バス添乗員採用による空いた時間の効果的な活用の仕方の工夫

（３）中・長期ビジョンの内容の検討

（４）創立９０周年・再興５０周年記念事業の計画的推進

（成果と課題）

○ 毎月の職員会議で、ホスピタリティの事例発表を２名ずつ行い，意識の継続・深化を図ることができた。

○ 効率化については、さらに行事等を精選し，意識を高めている。次年度はさらに徹底できるように努めていきたい。

○ 中期ビジョンを計画的に進めるため，効果的・効率的な幼稚園経営に努力し，教職員の資質・指導力向上を図りたい。

○ 周年事業については，ＰＴＡと連携し，無理のない計画を立てる必要がある。

以上　鹿児島幼稚園